

2022 年度
(令和 4 年度)

聖泉大学看護学部
年次報告書

領域・委員会

目次

1. 領域活動報告

1 - 1	基礎看護学領域	1
1 - 2	成人看護学領域	3
1 - 3	老年看護学領域	5
1 - 4	母性看護学領域	7
1 - 5	小児看護学領域	9
1 - 6	精神看護学領域	11
1 - 7	地域看護学領域	13
1 - 8	在宅看護学領域	15

2. 委員会活動報告

2 - 1	教務委員会	17
2 - 2	学生委員会	19
2 - 3	国家試験対策委員会	21
2 - 4	実習調整委員会	23
2 - 5	F D委員会	25
2 - 6	学術誌編集委員会	27
2 - 7	広報委員会	29
2 - 8	キャリアアップセンター委員会・研究促進	31
2 - 8 - 1	キャリアアップセンター委員会	31
2 - 8 - 2	研究促進	33

1. 領域活動報告

1-1 基礎看護学領域

1. 構成メンバー 西山ゆかり教授，小林菜穂子准教授，井之口文月講師，高島留美講師，川端愛野助教，川橋けい子助教

2. 教育活動

1 年:

今年度から新カリキュラムの開始となり，旧カリキュラムの「基礎看護論Ⅰ」を「基礎看護論」と「看護理論導入」，「生活援助論Ⅰ（旧：生活援助論）」「生活援助論Ⅱ（旧：生活援助技術論Ⅰ）」「看護導入実習」と，過年度生の授業と並行して行った。また 3 密を避けるために，演習では 2 クラスに分けて運営をおこなった。看護導入実習は，今年度からの導入である，各領域の教員と協働して，基礎看護学領域が主導となって 6 月に 1 週間実施した。

2 年:

「看護過程論」「生活援助技術論Ⅱ」「基礎看護学実習Ⅱ」「フィジカルアセスメント」については，誤嚥性肺炎の高齢者の事例を用いて，情報収集から看護計画の実施までを，知識・技術を統合させた。また複合演習として，聖泉大学の教職員・大学院生を模擬患者として看護実践を行い，計画の評価・修正には動画を撮影して，振り返りを行った。基礎看護学実習Ⅱについては，全員が，コロナ前の実習スケジュールにのっとり，臨地 7 日と学内 3 日のトータル 10 日間で，1～2 名の受け持ち患者の看護の展開を行うことができた。

3-4 年:

「地域統合実習」は，複数受け持ち患者の多重課題に取り組み，優先順位の決定，看護の実践，チーム医療における看護師長・看護リーダー・メンバーの役割について学ぶ事ができた。また，最終のまとめでは，近江八幡市立総合医療センターの看護部・各病棟と Zoom でつなぎ，学生たちの発表会に参加していただいた。「卒業研究」は，文献検討～課題提出，その後卒業研究発表を学内で行った。各自が興味のあるテーマに取り組むことができた。国家試験対策は，基礎看護学領域ゼミ生 13 名に対し，国試対策委員会を中心とし基礎ゼミでの勉強会と各ゼミでの学力低迷者対策を実施した。

3. 研究活動

<論文>

- 1) 西山ゆかり：看護職が考える看護における補完代替医療/療法，聖泉看護学研究，Vol.12，21-30，2023.
- 2) 後藤直樹，西山ゆかり，城ヶ端初子：看護系大学院を修了した看護管理者の役割行動，聖泉看護学研究，Vol.12，11-19，2023.
- 3) 岸本沙希，西山ゆかり，城ヶ端初子：急性心筋梗塞から再灌流治療までの危機的状況にある患者に対する救急看護師の看護実践，聖泉看護学研究，Vol.12，31-41，2023.
- 4) 小林菜穂子，西山ゆかり，間文彦：カリキュラム改正初年次の看護導入実習に関する実践報告，聖泉看護学研究，Vol.12，105-110，2023.

5) 井之口文月, 勝山裕:ニューロンのゲノムの多様性, 滋賀医科大学雑誌, Vol.36, 28-35, 2023.

6) 川橋けい子, 木村知子, 南谷志野: 臨床看護師の看護政策に対しての思いと行動, 聖泉看護学研究, Vol.12, 1-10, 2023.

<著書>

1) 城ヶ端初子, 桶河華代, 高島留美編著: 看護実践に生きているナイチンゲールの看護思想を見直してみよう!, サンライズ出版, 第1部3, 第2章2.3, 2023.

2) 城ヶ端初子編著, 奥田のり美, 桶河華代, 高島留美他: 看護におけるプレゼンの基礎と実際, サンライズ出版, 2023.

<学会発表・シンポジウム>

1) 小林菜穂子, 西山ゆかり, 井内伸栄, 平岡斎士, 都竹茂樹: 遠隔看護コミュニケーションスキルのチェックリスト開発, 日本教育工学会 2023 年春季全国大会, 2023 年 3 月 25 日 (於て: 東京学芸大学) .

2) 川橋けい子, 木村知子, 南谷志野: 第 26 回日本看護管理学会学術集会, 2022 年 8 月 20 日 (於て: 福岡) .

3) 川嶋みどり, 西山ゆかり (座長), 茂野香おる, 内山孝子, 大宮裕子, 川上貴子: 第 26 回日本統合医療学会学術大会, シンポジウム「自然治癒力を高める看護の力」, 2022 年 12 月 18 日, オンデマンド.

<助成金による研究活動>

1) 西山ゆかり, 木村知子, 川嶋元子, 安孫子尚子, 中島真由美, 流郷千幸, 小林菜穂子: 学生から新人看護師への役割移行プロセスにおける社会人基礎力育成プログラム開発, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C) ,2021-2025 年度.

2) 小林菜穂子, 西山ゆかり, 井内伸栄, 平岡斎士, 都竹茂樹: 遠隔看護を見据えた看護学生のコミュニケーション能力を高める教育方法の開発, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C) ,2021-2023 年度.

3) 記村聡子, 西山ゆかり, 蓮行, 宮下佳代子, 中村陽子: 看護系大学教員を対象としたコミュニケーション研修プログラム開発, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C) ,2020-2023 年度.

4. 地域貢献活動

1) 西山ゆかり: 彦根市立病院地域医療連携委員 (2021 年～2023 年 3 月)

認知症サポーター養成講座の当日運営 (2022 年 9 月 23 日)

ピンクリボン「帽子づくりワークショップ」の当日運営 (2022 年 10 月 8 日)

ブルーサークル「糖尿病の予防を考える」講座の当日運営 (2022 年 11 月 23 日)

2) 小林菜穂子: 秋の全国交通安全運動に係る立番 (2022 年 9 月 22 日)

3) 高島留美 (滋賀主催, 企画運営開催): ナイチンゲール看護研究会

4) 川端愛野: ピンクリボン「帽子づくりワークショップ」の当日運営 (2022 年 10 月 8 日)

5) 川橋けい子: 滋賀県看護連盟湖東地区支部施設リーダー (2022 年 4 月～2023 年 3 月)

1-2 成人看護学領域

1. 構成メンバー

中島真由美准教授，大久保仁司准教授，馬場好恵助教，岸本沙希助教，後藤直樹助教

2. 教育活動

1 年：「成人看護論」成人期の特徴について，発達課題と役割，生活の特徴，職業と疾患，生活習慣病，ヘルスプロモーションと経過別の特徴と看護について，事前・事後の学習課題，などを活用し理解を深めた．またグループごとの課題テーマに沿ったグループワークと発表を通して成人の学びを深めた．

2 年：「成人看護技術論Ⅰ」慢性的な健康問題を持つ対象を理解するための基本的な考え方を理解する為，講義と演習を行った．代表的な疾患を通して，事例に基づきアセスメントするレポート課題を課した．学習目標は概ね達成できた．

「成人看護技術論Ⅱ」急性状況（特に周術期）にある患者とその家族を理解するための基本的な考え方を理解するため，講義と演習を行った．代表的な疾患を通じて，生体侵襲からの回復過程，全身麻酔への全身への影響，起こりやすい術後合併症について，講義・演習・グループワークを通して学びを深めた．

「リハビリテーション看護」リハビリテーションの概念とチーム医療，器官別の障害の特徴とリハビリテーション看護について，講義とグループワーク・発表を通してリハビリテーションにおける看護についての理解を深めた．

3 年：「成人看護技術論Ⅲ」2 事例をもとに実習を見据えた PBL を行った．慢性期は 2 型糖尿病患者の事例を通して看護過程の展開を行った．個別に学生の記録に教員からのコメントを返して学習が進むよう授業を行った．急性期は，胃がんで胃切除を受ける患者の事例を通して看護過程を行った．周術期にある患者の身体面・心理面・社会面を捉えて，全体像を把握に必要な看護支援について，講義・演習・グループワークを通して学びを深めた．リフレクションの活用や，講義時間外に質問を受ける機会を設定するなど，学生の支援を行った．

「成人看護学実習（急性期）」臨地での実習を予定通り行った．周術期にある患者を 1～2 名受け持ち，術前から退院までの看護を展開した．在院日数の短縮に伴い，看護展開が早いいため困惑した学生も少なくなかったが，実習指導者と教員との連携した指導や，学内での振り返りの支援により，実習目標はおおむね達成することができた．

「成人看護学実習（慢性期）」臨地での実習を予定通り行った．慢性疾患を持つ患者を 1～2 名受け持ち，学内で振り返る時間を持つことで実施した看護の意味を考えた．実習目標はおおむね達成することができた．

「ターミナルケア論」人生の終末にある対象の身体的・心理・社会的・スピリチュアルな特徴を理解し，生活の支援を考えることを目標として講義，演習を行った．各学生が自分自身で考えを深めることを重視し，レポート課題を課した．学習到達目標は概ね達成できた．

4 年：卒業研究，地域統合実習，看護師国家試験対策

ゼミ生 8 名に対し，看護師国家試験対策として週 1 回の勉強会を開催した．地域統合実習では，各自のテーマに沿って臨地で学びを深めた．卒業研究においては学生個々のテーマに沿った研究指導を行い，卒業研究計画書の作成を目指して個別的な教育指導を行った．

3. 研究活動

<論文>

1) 中島真由美，後藤直樹，馬場好恵，岸本沙希，大久保仁司．（2023），成人看護学の看護

過程演習における模擬電子カルテを用いた情報収集に関する学びの内容，聖泉看護学研究，12，85-92.

- 2) 馬場好恵. (2023), ICU 中堅看護師の臨床判断の特徴－ICU 経験 3～5 年目の中堅看護師の看護実践に着目して－，聖泉看護学研究，12，75-84.
- 3) 岸本沙希，西山ゆかり，城ヶ端初子. (2023)，急性心筋梗塞発症から再灌流治療までの危機的状況にある患者に対する救急看護師の看護実践，聖泉看護学研究，12，31-41.
- 4) 後藤直樹，西山ゆかり，城ヶ端初子. (2023)，看護系大学院を修了した看護管理者の役割行動，聖泉看護学研究，12，11-19.
- 5) 田中里佳，大久保仁司，緒方昭子，森島加奈子，中島真由美，馬場好恵，岸本沙希. (2022)，本学で開講している“リハビリテーション看護論”の講義の実際～看護基礎教育における教授方法の検討～，ホスピスと在宅ケア，30（3），256-262.

< 著書 >

- 1) 城ヶ端初子編著，岸本沙希（第 1 部 5，第 3 章 3），後藤直樹（第 1 部 4）他：看護実践に生きているナイチンゲールの看護思想を見直してみよう！，サンライズ出版，2023.
- 2) 城ヶ端初子編著，岸本沙希（第 4 部，第 6 部），後藤直樹（第 2 部，第 6 部）他：看護におけるプレゼンの基礎と実際，サンライズ出版，2023.

< 学会発表 >

- 1) 岸本沙希，村田晃子，中西奈緒子，矢掛由貴子. 多数傷病者受け入れフローシートに沿った机上訓練からの課題，第 24 回日本救急看護学会学術集会，2022（口演）

< 助成金による研究活動 >

- 1) 西山ゆかり，流郷千幸，安孫子尚子，川嶋元子，中島真由美，木村知子，小林菜穂子：学生から新人看護師への役割移行プロセスにおける社会人基礎力育成プログラム開発，日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（C），2021-2024 年度.

< その他 >

- 1) 中島真由美. (2023)，外来通院する働く世代のがん患者への看護に関する研究，岐阜県立看護大学大学院博士論文.

4. 地域貢献活動

- 1) 大久保仁司，馬場好恵，岸本沙希，後藤直樹，安孫子尚子，中島真由美
びわ湖東北部地域連携協議会推進事業，がん看護にかかわる看護師のための研修会事務局，年間 3 回の研修会の企画と運営
- 2) 中島真由美：滋賀県看護学校協議会副会長，滋賀県ナースセンター事業運営委員会委員，滋賀県看護職員確保対策推進協議会専門部会部会員，キャリアアップセンターでの研究相談支援，近江八幡市立総合医療センター看護研究支援，近江兄弟社高校出張講義
- 3) 大久保仁司：公立大学法人和歌山県立医科大学大学院修士課程非常勤講師，市民教養講座「がんを知って予防しよう」講師，キャリアアップセンター講義講師・キャリアアップセンター研究相談支援，模擬授業（高校）；伊吹高等学校，分野別説明会（高校）；能登川高等学校，八幡高等学校高大連携講座
- 4) 馬場好恵：八幡高等学校連携講座「外科的手洗い」講師，模擬授業（高校）；長浜北星高校
- 5) 岸本沙希：第 5 地区看護協会協力員，職業人講話：能登川高等学校
- 6) 後藤直樹（広報担当），岸本沙希（会計担当）：ナイチンゲール看護研究会

1-3 老年看護学領域

1. 構成メンバー

安田千寿准教授，森野美由紀講師，村山仁衣菜助手

2. 教育活動

1) 2 年次前期：老年看護論（2 単位）

前年度まで老年領域の教授であった坂田特任教授による授業を行った。ワークシートと課題レポート，15 分程度の単元テストを組み合わせ、学生の学修状況を評価しつつ一方的な講義とならないような工夫を引き続き行っていただいた。

2) 2 年次前期：老年看護学実習Ⅰ（1 単位）

コロナ禍において臨地実習ができなかったため、映像資料を用いた高齢者事例に対し対象理解を中心に学びを深めた。シンク・ペア・シェアにてその人らしさへの理解を深めた上で、コミュニケーションと日常生活支援の 2 回に分けてシミュレーション演習を行った。それによりその人らしさを尊重し、強みを活かした支援について考察することができた。

3) 2 年次後期：老年看護技術論Ⅰ（2 単位）

前年度まで老年領域の教授であった坂田特任教授による授業を行った。認知症の軽症者が生き生きと生きている姿と授業の最初の方で映像資料を通して紹介し、ネガティブな印象をできるだけ少なくする工夫を行った。その結果、認知症患者へのポジティブな印象を持つ人が増え一定の成果が得られた（レポートより）。看護倫理においては高齢者の事例を用い、当事者の尊厳や環境の事情も含め現状の把握と課題を考察した。

4) 3 年次前期：老年看護技術論Ⅱ（2 単位）

高齢者の特徴を踏まえたケアの在り方，尊厳を大切にする高齢者看護を学べるように看護過程の展開を軸にして演習を行った。グループワークを通して情報収集やアセスメントの視野を広げ，看護計画のロールプレイではケアを受ける高齢者の気持ちを感じ，学びを深めた。学習目標はおおむね達成できた。

5) 3～4 年次：老年看護学実習Ⅱ（3 単位）

豊郷病院，ヴォーリズ記念病院，山崎病院の 3 か所で実習を行った。一部コロナ感染症対策により，病棟実習の期間の縮小および中止があった。どちらの実習方法においても，実習目標を達成できるよう，遠隔による実習指導者からの助言や映像資料を用いることで補った。また高齢者の持てる力や限界，自立・自律について考える機会を確保し，目標達成に近づけた。

6) 4 年次：地域統合実習（2 単位）

学生の興味関心に合わせた実習計画であったが，コロナ感染症拡大防止対策により，病院の一角で高齢者に接する機会を極力減らした実習となった。病院の協力もあり，入院中の情報は都度聴取することができ，それぞれの課題に向き合うことができた。

7) 4 年次：卒業研究（4 単位）

ゼミ生 7 名に対し，ゼミ前半は全員の集合形式で，後半は担当制の個別対応で指導を行った。7 名すべてが関心のあるテーマで研究計画書を書き上げることができた。

8) 4 年次：国家試験対策

感染対策に十分配慮しつつ，毎週月曜日にゼミ生で集まり勉強会を行った。勉強会での知識を確実にするために，教員が国試問題を作成し学生に都度課した。また，学生が入力した国家試験成績推移シートを適宜確認し，学習方法について助言・指導した。

3. 研究活動

<論文>

- 1) 安田千寿，森野美由紀，村山仁衣菜：高齢者が出演する「視聴覚教材」と「演習」に関連した文献検討－高齢者理解に対応する教材を目指して－，聖泉看護学研究

Vol.12, 2023.3.

- 2) 森野美由紀, 安田千寿, 村山仁衣菜: コロナ禍における看護系大学の老年看護学代替実習の実践報告ー高齢者を統一体として理解を促すための工夫ー, 聖泉看護学研究 Vol.12, 2023.3.

<学会発表>

- 1) 安田千寿, 森野美由紀: 高齢者の統合的な理解に対する遠隔授業の実践報告, 日本老年看護学会第 27 回学術集会, 2022 年 6 月.
- 2) 森野美由紀, 安田千寿: コロナ禍における老年看護学実習(学内実習)の実践報告, 高齢者を統一体として理解を促すための工夫, 日本老年看護学会第 27 回学術集会, 2022 年 6 月.

4. 地域貢献活動

1) 安田千寿

- ・ 令和 4 年度長浜市介護認定審査会委員
- ・ 愛荘町介護保険運営協議会 (副会長), 愛荘町高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会委員, 地域包括支援センター運営協議会委員, 指定地域密着型サービス運営委員会委員
- ・ 滋賀県看護協会常任委員 (学会委員)
- ・ 滋賀県レイカディア大学米原校講師, 老化と食機能の変化についての講義 (1 月 23 日), 滋賀県立長寿社会福祉センター, 滋賀県レイカディア大学草津校講師, 排泄機能の変化への対応 (3 月 13 日), 聖泉大学
- ・ 水口東高校模擬授業, 看護師の役割, 高齢者の理解と支援 (12 月 12 日), 水口東高等学校

2) 森野美由紀

- ・ 看護協会主催, 看護の魅力配達事業 講師 (7 月 19 日), 彦根翔西館高校
- ・ 看護協会主催, 全世代型地域包括ケア推進フォーラム 講師 (2 月 4 日), くすのきセンター
- ・ キャリアアップ講座 司会

1-4 母性看護学領域

1. 構成メンバー

木村知子教授，漆野裕子講師，花原恭子講師

2. 教育活動

- 1) **2 年：母性看護論**（30 時間 2 単位）では、「母性とは？」より始まり，母子を取り巻く社会や親子，家族関係の変化，母子の権利，災害時の母子などの理解を深める授業内容とした。講義の前後には事前・事後の課題に取り組み，学びを深める機会とした。特別講師による「海外の母子保健・在留外国人の女性」を 1 コマ設けた。また本学別科助産専攻のウイメンズヘルスとの合同授業として，助産師学生によるプレコンセプションケア「ストップ！性感染症！～大切な人を感染させないために～」 「自分らしい人生を歩むために ～予期せぬ妊娠を防ぐ～」 「加害者にも被害者にもならないために～デート DV について知ろう!!～」の 3 つをテーマに進め，両学生ともに学びが多かった。
- 2) **2 年：母性看護技術論Ⅰ**（30 時間 2 単位）では，周産期における正常経過と看護について講義を行っている。妊娠経過に伴う保健指導内容，分娩経過と看護，産褥経過における心身の変化と看護，正常新生児の生理的变化と看護の視点について，母性看護学実習にも活用できる経過一覧表の作成を課題とした。さらに対象理解を目的として，卒業生に協力を得て，初産婦や経産婦の妊婦および産後 1 か月の母子に特別講師として 2 組に自身のことを話してもらい（2 コマ），学生のイメージ化を図るための工夫を行った。
- 3) **3 年：母性看護技術論Ⅱ**（60 時間 2 単位）では，講義及び技術演習を含む内容とした。周産期における異常と，正常産褥・新生児を理解するにあたり，ウェルネス志向型の看護過程の展開を行った。初産婦・経産婦それぞれの妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の事例のアセスメントから看護計画立案までを課題とした。技術演習では，妊婦健康診査に必要な計測，NST モニターの装着と判読，産褥期の子宮底長測定，乳房管理，新生児の全身の観察と児の抱き方，沐浴を行い，学習目標はおおむね達成できた。
- 4) **3 年：母性看護学実習**（90 時間 2 単位）は，COVID-19 感染症拡大のため，15 グループのうち 14 グループが 4 施設の病院実習を行った。5 グループは予定通りの日数の実習を行い，9 グループは 1～4 日間，1 グループはすべて学内実習となった。臨地実習期間を短縮または学内実習では，臨地実習の経験を考慮し，不足内容を学内や自宅 ZOOM にて模擬事例や動画を用いての看護展開を行った。学生 2 名 1 組で母子を受け持ち，ウェルネス志向型で看護過程を展開し，学内にて保健指導の実施を行い，理解を深めることができた。以上のことから，実習全体を通しておおむね目標達成に繋がった。
- 5) **4 年：地域統合実習**（90 時間 2 単位）では，実習施設以外の施設（総合周産期センター，産科クリニック，母子の広場等）で，ハイリスク母子，産後ケアをはじめとする母子の継続ケア，育児期の母子に関わることを目的として，各自の目標を設定し実施した。
- 6) **4 年：卒業研究**（4 単位）では，12 名のゼミ生それぞれのテーマに対しての研究指導を行った。
- 7) **4 年助産師学校受験対策**：助産課程進学希望者 9 名（含母性看護学ゼミ生以外の 2 名）に進学受験指導や面接指導等を行い，うち 8 名がそれぞれ進学することとなった。
- 8) **別科助産専攻における授業及び実習**：木村がウイメンズヘルス（2 単位 30 時間）うち花原が 2 コマ担当，助産診断・技術学Ⅲの 2 コマ（ベビーマッサージ）を担当した。

助産学実習Ⅰ（分娩介助実習）、Ⅱ（継続事例実習）については、漆野、花原がのべ12日間担当した。

3. 研究活動

<著書>

- 1) 花原恭子：母児を交通事故から守るために助産師にできること 周産期女性の交通安全を考える〔第4回〕妊婦とシートベルト，ペリネイタルケア，41(6)，90-93，メディカ出版，2022.

<論文>

- 1) 川橋けい子、木村知子、南谷志野：臨床看護師の看護政策に対しての思いと行動，聖泉看護学研究，12，1-10，2023年3月
- 2) 小森久美子、木村知子、南谷志野：中規模病院の看護部長が就任後に直面する課題への対処，聖泉看護学研究，12，53-62，2023年3月

<学会発表>

- 1) 漆野裕子：0歳児をもつ母親が認識する妊娠期からの家事・育児役割分担に関するコミュニケーションの課題，聖泉大学看護学部 看護フォーラム，2022年9月。
- 2) 土川祥，花原恭子，立岡弓子，一杉正仁：妊婦が自覚するマイナートラブルが自動車事故やヒヤリハットの原因になり得る，第58回日本交通科学学会誌，22，29，2022.
- 3) 花原恭子：妊娠期からマインドフルネスを取り入れた育児中の母親へのメンタルヘルスの効果における海外研究の動向，聖泉大学看護学部 看護フォーラム，2022年9月。
- 4) 川橋けい子、木村知子、南谷志野：看護連盟に入会している臨床看護師が捉える看護政策，第26回日本看護管理学会学術集会，抄録集310，2022年8月
- 5) 近野由美、木村知子、南谷志野：訪問看護師が認識している心不全の後期高齢者が再入院を回避するための関わり，第26回日本看護管理学会学術集会，抄録集291，2022年8月

<その他>

- 1) 花原恭子：Education for appropriate seatbelt use required for early-phase pregnant women drivers，滋賀医科大学大学院博士論文、2023.3

4. 地域貢献活動

1) 木村知子

- ◆ 滋賀県立大学 経営協議会外部委員
- ◆ 日本子ども虐待防止学会 第29回学術集会プログラム・実行委員
- ◆ 滋賀県母性衛生学会 理事 同学術雑誌査読委員
- ◆ 滋賀県助産師出向支援協議会委員
- ◆ 滋賀県看護協会 認定看護管理者教育運営委員会委員
- ◆ 彦根市立病院 同病院 倫理委員会外部審査委員
- ◆ 東近江総合医療センター 地域医療支援病院運営委員会委員

2) 漆野裕子

- ◆ 滋賀県母性衛生学会 幹事 第32回滋賀県母性衛生学会学術集会実行委員

3) 花原恭子

- ◆ 滋賀県看護協会 助産師職能委員
- ◆ 第32回滋賀県母性衛生学会学術集会実行委員
- ◆ 滋賀医科大学医学部看護学科臨床看護学講座（母性・助産）客員講師

1-5 小児看護学領域

1. 構成メンバー

平田美紀教授，村井博子講師

2. 教育活動

1) 2 年次前期：小児看護論（2 単位）

子どもと家族，子どもを取り巻く環境の変化，子どもの健全な育成や施策について講義を行った。また，発達に関する理論は，2 コマを人間学部の池田先生へ依頼した。15 コマの講義の復習として小テストを 2 回行った。

2) 2 年次後期：小児看護技術論Ⅰ（2 単位）

子どもの成長・発達の特徴及び養護・生活支援，症状別看護について講義・演習を行った。健康な子どもの遊び演習では例年実施している保育園児を招いた遊びの展開（グループワーク）がコロナ禍で不可能であったため，発達段階に応じたおもちゃの作成（個人課題）を行った。それぞれが手作りの絵本やおもちゃを作成し，目的や遊び方など実演しながら全体で学びを共有した。症状別看護では，講義と急性期の子どもの事例とともにヘルスアセスメントを行った。

3) 3 年次前期：小児看護技術論Ⅱ（2 単位）

看護過程においては，事例をもとに個人ワークで看護問題を抽出し看護計画を立案した。個人ワークに対しては，個別での記録指導を行い看護過程への理解が深まるようにした。プレパレーション演習については，看護過程から抽出した看護計画をもとにプレパレーションツールを作成（個人課題）し学びの発表を全体で行った。小児特有の技術演習はグループの人数を少なくしモデル人形を使用しながら実施した。

4) 3 年次（後期）～4 年次（前期）：小児看護学実習（90 時間 2 単位）

小児看護学実習のうち，健康な子どもの成長・発達を理解するためにつくし保育園と八木荘保育園で COVID-19 感染防止のために半日（9：00-13：00）×2 日間の実習を行った。地域で暮らす障がいをもつ子どもを理解するために野洲養護学校と甲良養護学校で特別支援学校実習（野洲，甲良）を 2 日間行った。

病院実習として長浜赤十字病院（2G），彦根市立病院（4G），近江八幡市立総合医療センター（6G），滋賀県立小児保健医療センター（3G）の 4 か所で実習を行った。小児保健医療センターにおいては，COVID-19 感染防止のために半日（9：00-13：00）×3 日間＋学内 5 日間の実習とした。

5) 4 年次：地域統合実習（2 単位）

ゼミ生 7 名に対して，ゼミ生の興味・関心にあわせた目的を立て個人で実習計画書を作成した。実習は野洲養護学校，近江八幡市立総合医療センター，小児保健医療センターで行った。感染防止を行いながら予定通り進められた。

6) 4 年次：卒業研究（4 単位）

それぞれの関心のあるテーマをもとに研究計画書を作成した。ゼミの前半はゼミ生全員で論文クリティークを実施し，後半は担当制の個別対応で指導・助言を行い 7 名全員が研究計画書を書き上げ学内フォーラムで発表した。

7) 4 年次：国家試験対策

コロナ感染症対策を十分に配慮しつつ、教員が国師問題を作成しゼミで勉強会を行い個別学習に取り組んだ。

3. 研究活動

＜学会発表＞

- 1) 平田美紀，流郷千幸，鈴木美佐，村井博子（2022）PMEC スタッフ研修会受講者のプレパレーションに関する意識と行動の変化：，第 42 回日本看護科学学会学術集会 プログラム集，107.

＜助成金による研究活動＞

- 1) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究（C）
平田美紀：PCP プログラムの開発：子どもの採血・血管確保時の苦痛緩和のためのプログラム（科研課題番号：19K11102）
- 2) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究（C）
村井博子（研究分担者）：PCP プログラムの開発：子どもの採血・血管確保時の苦痛緩和のためのプログラム（代表者：平田美紀 科研課題番号：19K11102）
- 3) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究（C）
平田美紀，村井博子（研究分担者）：食物アレルギー児の社会的集団生活スキルの獲得過程の解明と支援プログラム構築（代表者：鈴木美佐 科研課題番号：21K10927）

4. 地域貢献活動

- 1) 領域全員
 - ① PMEC スタッフ研修会
 - ・第 1 回 PMEC スタッフ研修会
(2022.11.23 オンライン開催：参加者 18 名，2023.1.29 オンライン開催：参加者 22 名)
 - 2) 平田美紀
 - ・日本小児看護学会誌編集委員会査読員
 - ・彦根市子ども・若者支援地域協議会代表者
 - ・看護キャリアアップセンター研究相談
 - ・近江八幡市立総合医療センター院内看護研究発表会講評
 - 3) 村井博子
 - ・滋賀県看護学校協議会臨地実習委員会委員
 - ・看護協会主催，看護の魅力配達事業 講師（10 月 31 日）八日市高等学校

1-6 精神看護学領域

1. 構成メンバー

間文彦教授，佐伯興平助教

2. 教育活動

1 年：人間関係論は（間）．本年度から新カリキュラムなった．2 名の再履修者に対しては、旧カリキュラムの対応としてレポート課題とした。講義内容としては、看護師として重要である援助的コミュニケーションのあり方を理解するため、manaba を中心に対人関係における自分自身のコミュニケーションの傾向を再考察できるような課題構成を行った。

2 年：精神看護論は（間）．精神看護学において基礎となる疾患や社会復帰に向けての活動や、精神障害者の処遇や歴史的背景を踏まえた講義を行った。

精神看護技術論Ⅰはオムニバスで開講した（佐伯，間）．精神障害をもつ人のストレングスの捉え方など，事例を通して考えたことをレポートにまとめ manaba に提出。

3—4 年：精神看護技術論Ⅱはオムニバスで開講した（佐伯，間）．看護過程を展開する理論としてオレムのセルフケアを中心に講義をおこなった．また，病院から地域へと転換されている精神保健の流れから，ストレングスモデルを使って患者を理解するための講義と演習を取り入れた。

精神看護学実習は，新型コロナウイルス対策を行い，水口病院 2 病棟（閉鎖病棟・回復期開放病棟）で実習を行なった．しかし，2023 年 1 月から新型コロナ感染拡大に伴い，水口病院 4 グループ，豊郷病院 1 グループが学内実習で対応した．内容としては，事例を基に看護過程を行った．また，プロセスレコードは教員が患者役となり自己のコミュニケーションの振りかえりが行えた．水口病院，豊郷病院ともに配慮していただき 2-3 日間の病棟実習期を行えた．閉鎖病棟と開放病棟のハード面とソフト面の違いの理解を深めるために，実習最後の午前に各病棟から病棟の特性・入院患者の入院形態・病態の説明等を発表し共通認識を深める指導を取り入れた．地域における精神障害者の社会資源として，精神障がい者通所施設就労継続支援 B 型作業所モコハウス（半日）・ワークステーション虹（終日）での実習は達成できた．小規模作業所の理解を深めることができた．

カンファレンスは，病棟指導者に参加してもらい毎日 30 分程度行った．実習初日は，患者とどのように関わればよいかとまどう学生が多かった．しかし，プロセスレコードの活用により自身の傾向を理解することができた．また，患者さんの健康な側面やその人を中心にセルフケア援助を理解することができた．

4 年：統合実習においては，水口病院では 6 名の学生は予定通り病院施設で実習が行えた．豊郷病院の 2 名の学生はコロナ患者が在院中であることから，病院実習は中止となった．しかし，病棟の配慮の元 ZOOM で患者さんとのコミュニケーションを図ることができた．ま

た、最終日には病棟入り口で窓越しに患者さんに対応させていただき実習のお礼を伝えることができた。

卒業研究は、それぞれの研究テーマを中心に精神障害者の急性期から退院支援に向けた看護職の役割を主体的に学習することができた。

3. 研究活動

<論文>

- 1) 後藤則子, 安孫子尚子, 間文彦, (2023) : 高次脳機能障害者の就労支援における回復期リハビリテーション病棟に勤務する看護師の役割, 聖泉看護学研究, 21, 63-73.
- 2) 小林菜穂子, 西山ゆかり, 間文彦, (2023) : カリキュラム改正初年次の看護導入実習に関する実践報告, 聖泉看護学研究, 12, 105-110.

<雑誌>

- 1) 間文彦, (2022) : 聖泉大学の彦根市機能別消防分団の歩みとこれからの取り組み, びわ湖東北部地域の産官学連携ハンドブック, 4, 16-17.

<学会発表>

なし

<助成金による研究活動>

なし

4. 地域貢献活動

各教員

- 1) 間文彦 : 日本看護協会滋賀県支部主催 ー看護研究をやってみようー 講師
- 2) 間文彦 : 彦根市公共上下水道事業審議会委員
- 3) 間文彦 : 彦根市地域支援会議委員 理事
- 4) 間文彦 : びわ湖東北部地域連携 市民公開講座
- 5) 間文彦 : びわ湖東北部地域連携 健康講座
- 6) 間文彦 : 滋賀県社会福祉協議会委員
- 7) 間文彦 : 第 41 回滋賀県社会福祉学会 座長・審査委員長
- 8) 間文彦 : 近江地域学会 理事
- 9) 間文彦 : 社会福祉法人かすみ会 第三者委員会 委員長
- 10) 間文彦 : 彦根市地域支援会議委員長

1-7 公衆衛生看護学領域

1. 構成メンバー

安孫子尚子教授，大塩佳名子講師，後藤則子助教

2. 教育活動：

1 年：「公衆衛生看護論」「ヘルスプロモーション活動論」（新カリキュラム）

公衆衛生看護の理念や活動の歴史，対象や看護の場や方法について教員の事例や DVD を用いながら，学生が公衆衛生看護に関する具体的なイメージを持てるような講義を行った．個人・家族・集団の学習に関する現状や課題に基づき，健康教育を検討できるよう諸理論の説明を行った．

2 年：「地域看護論」「地域看護技術論Ⅰ」「地域看護技術論Ⅲ」

公衆衛生看護の理念や活動の歴史，看護の対象に対する活動の展開について講義を行った．保健師が地域住民に行う健康への支援について，母子事例を用いた家庭訪問援助計画作成と母子，高齢者のライフステージ別の健康教育の企画・実施の演習を行った．個人やグループで取り組む課題は，教員が授業毎に助言を行うことで学習目標を達成した．地域診断の演習では，滋賀県内の模擬市町のデータからグループ地域課題を見出せるように工夫し成果発表を行い，全体の共通理解につながった．

3 年：「地域看護技術論Ⅱ」

対象別保健活動について，保健医療福祉行政の法律に基づき行う活動を説明し，課題付レポートに取り組むことで学生の学びを促進した．健康危機管理（感染症対策と災害保健活動）では，滋賀県保健師による講義を行い，滋賀県の現状と取り組みについて理解を促した．

4 年：「地域看護学実習」「卒業研究」「国家試験対策」

保健師教育課程の 30 名は県内保健所，市町保健センター，地域包括支援センターで実習を行った．家庭訪問では学生のみで行う継続訪問の実施し，家庭訪問報告会を行うことで学生が個別事例から地域課題へのつながりを意識させた．学生は実習前後の発表会の準備から実施に向けた地域診断の取り組みによって地域特性を理解した．また，同じ時期に別の実習地で実習を行うグループが相互に学びを深められるように，報告会を実施した．実習での健康教育や地域診断というグループでの取り組みは，学生自身が自分の役割を果たし，建設的に話し合い，グループダイナミックスを学ぶ機会となった．

「卒業研究」では，6 名が研究計画書作成に取り組んだ．研究方法は，質的・量的研究，対象は保健師・看護師・看護学生・在宅療養患者，分野は多岐にわたり，学生が学んだ 4 年間に持った疑問を明らかにする手がかりをつかむことができた．「地域統合実習」では，6 名の学生が彦根市の地域データをアセスメントし，地域住民に勧める食生活（バランスの良い食事）について取り組んだ．地域住民やコンビニエンス関係者に対するインタビュー（市場調査）を行い現状の把握をしたうえで，解決策を学生なりに検討し，提案することができた．

人間学部 2 年生：「保健管理学」

健康運動実践指導者認定でもある授業では，健康の定義やわが国で取り組まれている健康づくり施策，施策の具体的な実践について説明した．

各メンバーの専門性を生かした授業科目「防災論」「災害看護論」「近江での SDGs の実践」を担当している．

3. 研究活動

<論文および報告書>

- 1) 大塩佳名子, 流郷千幸. (2022). 夫婦関係満足度が児の泣きに対する育児困難感へ与える影響, 日本看護研究学会, 45 (4), 761-770.
- 2) 後藤則子, 安孫子尚子. (2022). 高次脳機能障害者の就労における家族の捉え方, 日本看護学会誌, 18 (1), 150-156.
- 3) 後藤則子, 安孫子尚子, 間文彦. (2023). 高次脳機能障害者の就労支援における回復期リハビリテーション病棟に勤務する看護師の役割, 聖泉看護研究, 12, 63-73.

<学会発表>

- 1) 安孫子尚子, 巽あさみ (2022) : Factors actors associated with end-of-life decision-making among healthy Japanese Elderly, 25thEAFONS, EC-79.

<助成金による研究活動>

- 1) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C)
安孫子尚子: すこやかな最終段階を迎えるための意思決定の促進とソーシャルキャピタルの醸成, (課題番号 17K12603) 2017-2022
- 2) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C)
安孫子尚子 (研究分担者): 「学生から新人看護師への役割以降プロセスにおける社会人基礎力育成プログラム開発」 (代表者: 西山ゆかり, 課題番号: 21K10591) 2021-2024
- 3) 文部科学省研究費助成事業 若手研究
大塩佳名子: 父親・母親による乳幼児揺さぶられ症候群のリスクスクリーニング尺度の開発, (課題番号 19K196720) 2019-2022

4. 地域貢献活動

- 1) 領域全員
 - (1) びわ湖東北部地域版「SDGs でつなぐ学生の地域連携プロジェクト」
 - ①彦根市民の健康課題に対する予防的支援のための教材開発: 彦根市健康推進課
 - ②がん患者に対する支援～学生が簡単に制作できる「タオル帽子」～: ピンクリボンひこね
 - (2) びわ湖東北部地域連携協議会「地域コミュニティ活性化事業」: 光と色でつながるびわ湖東北部地域の健康づくり
- 2) 安孫子尚子
【彦根市】高齢者保健福祉協議会長, 健康づくり推進協議会会長, 地域密着型サービス運営委員
・私立 4 高等学校と聖泉大学の連携講座 講師, 2023 年 3 月 26 日
・いずみ健やか塾 (自主活動グループ) によるレクリエーションアイデア集の製作を行っている
・ピンクリボンひこね実行委員会, がん検診推奨チラシ作成と彦根市内中学校の配布, 検診実施
・びわ湖東北部地域連携協議会「地域人材活性化支援事業」: 看護師のがん看護の向上とストレスマネジメントにかかる研修
- 3) 大塩佳名子
・ピンクリボンひこね実行委員
- 4) 後藤則子
・【滋賀県】精神医療審査会 (6 回/年), 精神保健法第 38 条の 4 の規定に基づく退院等の請求にかかる面接調査 3 名
・「保健師初任者研修会」講師, (高島保健所)

1-8 地域・在宅看護学領域

1. 構成メンバー

川嶋元子准教授, 佐藤綾野助教

2. 教育活動

1) 2 年次（前期）：在宅看護論

前年度まで、地域・在宅看護学領域の教授であった磯邊教授に講義を担当していただいた。定期的にレポート課題の提出を求め、提出された課題に対しては、個々にフィードバックを行い、誤字脱字は指導し、文章の書き方や「論理的に書く」習慣を教授した。授業教材は現場実践が理解しやすく、さらに感性が育つよう、相応しい医療モデルビデオ等を取り入れた。

2) 2 年次（後期）：在宅看護技術論 I

毎授業終了後、5 分間テストを manaba で行い、授業の振り返りと学習確認を行った。manaba を利用し、自己の課題への気づきと同時に、国家試験問題も提示し、知識の蓄積、拡大を促した。また、適宜、視覚的教材を取り入れ在宅療養者のイメージができるように教授した。

3) 3 年次（後期）：在宅看護技術論 II

看護過程においては、個人ワークで行った事例をグループワークでさらに深めるように授業設計を行った。個人ワークに対しては、個別での記録指導を行い学生一人一人に合わせることで、学生の看護過程への理解が深まるようにした。また、グループで作成した援助計画に基づいてロールプレイングを行うことで、訪問看護の体験し援助内容の振り返りができるよう教授した。演習の際には、訪問看護ステーションの管理者にマナー演習に参加頂き、在宅看護の特性と役割の認識向上を高めた。さらに、地域包括支援センターの役割や認知症療養者の地域の取り組みを外部講師の協力を得て教授した。

4) 3 年次（後期）～4 年次（前期）：在宅看護学実習

臨地実習の工夫：コロナ禍での施設の受け入れ状況に合わせて、訪問看護ステーション実習 4 日間、地域包括支援センター実習を 1 日半体験することができた。訪問看護実習においては、受け持ち療養者を決め看護過程の展開が行えたため、在宅で暮らす療養者の生活、訪問看護師の役割について学ぶことができた。

5) 4 年次（通年）：ゼミ

卒業研究は、学生の関心のあるテーマを尊重し、内容を深め、計画書作成まで全員が到達した。地域統合実習は「看護小規模多機能型施設」と「地域包括ケアセンターいぶき」、「訪問看護ステーション」で実施した。地域で療養者を支える仕組みと高齢者や障害者、認知症患者の多い地域での看護活動を学んだ。また、訪問看護ステーションでは、学生の関心のある精神疾患を持つ療養者や、ストーマ造設後の療養者の事例を訪問させていただき、個別性のある支援方法について深めることができた。国試対策は学生の個別性に応じ指導を行い、在宅ゼミでは本年も国試を落とした学生はいなかった。

3. 研究活動

< 著書 >

- 1) 磯邊厚子, 川嶋元子, 桶河華代, 今井恵, 西垣里志, 佐藤綾野: 実践報告 地域ではぐくむ看護教育 - 高齢者と看護学生の交流が未来の看護実践を拓く -, 看護展望, 9 月, 2022.

< 論文 >

- 1) 川嶋元子, 原田春美, 外来看護師の在宅療養支援の役割認知尺度の開発, 日本看護医療学会, 3 月 20 日, 2022.
- 2) 西川まり子, 佐藤綾野, 永井翔, 奥村茂夫, 内山昌美, 若園尚美, 肥後恵美子(2022). 世界のリーダーが, COVID-19 パンデミック中に何を語っているのか? -2021 年 I C N Congress, 日本ヒューマンヘルスケア学会誌, 7 (2).

< 学会発表 >

- 1) 佐藤綾野, 西川まり子(2022). 新任期保健師の職務満足度と職業性ストレス, 日本ヒューマンヘルスケア学会第 5 回学術集会(Web), 日本ヒューマンヘルスケア学会誌, 8(1), p33. ※口演発表部門最優秀賞受賞
- 2) Nishikawa Mariko, Sato Ayano, Nagai Sho, Uchiyama Masami, Yamada Naomi, Higo Emiko, Wakazono Naomi(2022). (Topics of Regional Interest at the International Council of Nurses Congress 2021: A text mining analysis, 日本ヒューマンヘルスケア学会第 5 回学術集会(Web), 日本ヒューマンヘルスケア学会誌, 8(1), p37.

< 助成金による研究活動 >

- 1) 川嶋元子, 小野ミツ: 中規模病院の外来看護師における在宅療養支援の看護実践能力自己評価尺度の開発 (課題番号 19K11127), 2019-2023.
- 2) 西山ゆかり, 木村知子, 川嶋元子, 安孫子尚子, 中島真由美, 流郷千幸, 小林菜穂子: 学生から新人看護師への役割移行プロセスにおける社会人基礎力育成プログラム開発, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C) ,2021-2025.

4. 地域貢献活動

領域全体: 川嶋元子, 佐藤綾野: 聖泉大学 「高齢者と看護学生の地域内交流」地域活性化プロジェクト 2022 6 月～2022 3 月

川嶋元子: 日本看護協会 外来看護職員の在宅療養支援能力向上のための研修プログラムの検討委員.

川嶋元子: 滋賀県看護協会 新卒訪問看護師育成プログラムによる育成支援体制の検討委員.

川嶋元子: キャリアアップ講座 共同研究指導 ぴあ野訪問看護ステーション 石原蓮見.

川嶋元子: 令和 4 年度滋賀県立高等学校生徒を対象とする大学連続講座, 訪問看護ってどんな仕事, 7 月 25 日, 2022.

佐藤綾野: 日本ヒューマンヘルスケア学会副事務局長, 評議員, 第 5 回学術集会実行委員(Web),

佐藤綾野: 日本人間関係学会第 30 回全国大会実行委員(兵庫),

佐藤綾野: 八幡高校広大連携, 高齢者理解, 11 月 2 日, 2022. 草津東高校進学相談会, 看護分野, 3 月 20 日, 2023. オープンキャンパス模擬講義, 訪問看護師の仕事, 9 月 4 日, 2022.

佐藤綾野: 茶道部 副顧問

2. 委員会活動報告

2-1 教務委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長: 西山ゆかり
- 2) 委員: 安田千寿, 川嶋元子, 漆野裕子, 大塩佳名子, 岸本沙希, 佐伯興平, 岩淵亜貴子

2. 所掌事項(看護学部教務委員会規程)

- 1) 試験に関する業務
 - (1) 定期試験日程調整 (2) オリエンテーション (3) 定期および再試験の依頼
 - (4) 試験結果一覧作成 (5) 成績通知 (6) 進級判定資料作成 (7) 試験監督の調整
 - 2) 学年暦の作成
 - 3) 各ワーキンググループの役割(教務委員会内取り決め)
 - A: フレッシュゼミ, キャリア教育Ⅰに関すること
 - B: 卒業研究, キャリア教育Ⅱ・Ⅲに関すること
 - C: キャリア教育Ⅳ, 履修要項, 履修登録, 時間割, 試験日程, 外部講師対応, 遠隔授業・試験に関すること
- * 各ワーキングが担当する内容報告により委員会で検討を行った。

3. 委員会活動

回数	年 月 日 (曜日)	主な議題, 内容等 (毎回: 各ワーキング報告)
1	2022 年 4 月 11 日 (月)	1. 新年度各学年ガイダンスの振り返り 2. 委員会体制について, 各ワーキング役割確認 3. 旧カリと新カリの読み替えについての検討 4. 授業開始に向けて 1 年生の遠隔授業準備 (Zoom 実施)
2	2022 年 5 月 9 日 (月)	1. フレッシュゼミ, キャリア教育Ⅱの進捗状況と学生の出欠について 2. 卒業研究要項 (5 月に学生配信) の検討と提出物について 3. キャリア教育Ⅱ・キャリア教育Ⅲの講師決定と依頼について 5. 新カリの 8 コマ講義の定期試験実施についての検討
3	2022 年 6 月 13 日 (月)	1. 前期試験日程調整・時間割 (案) と試験監督要領の確認と検討 2. 1 年生の前期試験オリエンテーションの日程と担当 3. 休学学生の通年科目に関する単位の認定についての検討 4. 発熱者・濃厚接触者・接触者の授業保障についての検討 5. キャリア教育Ⅲの外部講師の日程調整・対応
4	2022 年 7 月 11 日 (月)	1. PROG 結果返却について (4 年生はゼミ毎) 2. タクナルの研修依頼と講習料について 3. キャリア教育Ⅲの討議法の運営について検討 4. 卒業研究発表のオリエンテーション内容と担当者の決定 5. 後期ガイダンス日程調整と各委員会との調整 6. 3 年生の特別試験日程の調整と科目責任者との実施計画についての調整
5	2022 年 8 月 8 日 (月)	1. 追試験・再試験実施についての確認 (遠隔試験方法・成績〆切等) 2. 前期試験の振り返りと後期時間割について 3. フレッシュゼミの成績評価 4. キャリア教育Ⅱ・Ⅰの内容の新カリキュラム内容の検討
6	2022 年 9 月 12 日 (月)	1. 追試験・再試験・最終試験に関する振り返り 2. 後期単位登録・新カリの読み替えについて 3. 後期時間割配信について 4. 卒業研究発表会の 3 年生の参加 (対面・遠隔) についての検討
7	2022 年 10 月 14 日 (金)	1. 後期単位登録の報告と単位読み替えについて 2. 途中休学した学生の通年科目の単位認定についての検討 3. 卒業研究ゼミ生の人数とメンバー決定 (案) の検討 4. 2 年生の後期試験・追試験・再試験の日程変更案についての検討 5. 2023 年度の学年歴, 8 コマ講義科目の試験実施についての検討
8	2022 年 11 月 25 日 (金)	1. 3 年生卒業研究ゼミの決定と学生への配信 2. 4 年生卒業研究・キャリア教育の成績評価 3. タクナルの教員研修の企画についての検討 4. 次年度のシラバス依頼・〆切・内容チェックの日程等の調整について 5. 次年度の教務委員会の予算について
9	2022 年 12 月 20 日 (月)	1. 新カリキュラムの人間学部との合同科目についての検討 2. 後期試験日程と監督者案について検討 3. 2023 年度の新カリキュラムの科目責任者の確認と非常勤講師依頼
10	2023 年 1 月 11 日 (水)	1. 非常勤講師の依頼と確定の報告 2. 2023 年の学年歴: ターム制による試験実施期間の検討 3. 2023 年度のフレッシュゼミ, キャリア教育Ⅰ～Ⅳのシラバスの検討 4. シラバスチェックの手順の確認と日程調整

11	2023 年 2 月 13 日（月）	1. 本試験・再試験の振り返り 2. 2023 年度時間割・学年歴・履修要項作成の修正について 3. シラバスチェックの結果報告
12	2022 年 3 月 22 日（火）	1. 新学期の教務ガイダンス（履修登録等）担当について 2. 2022 年度振り返りと年間活動報告および次年度の課題について 3. 新カリキュラムの読み替えについて

4. 委員会総括

今年度も、COVID-19 感染に関する行動指針に則り、学生が不利益にならないように対面授業と遠隔授業を準備していたが、すべて対面での授業を運営することができた。遠隔授業に関しては、濃厚接触者・感染者など、床上の安定した学生の授業保障として取り入れた。また、新カリキュラムのスタートに伴い、過年度生の科目読み替えと履修登録、その他学生の不利益が起らないように、適宜文章で説明を行い進めた。

以下、各ワーキングについての主な振り返りを行った。

- 1) ワーキング A: 主に 1 年生のフレッシュゼミ、キャリア教育 I を担当した。1 年生のタクナルを 1 年生の担任および教務委員全員で今年度も取り組み、ほぼ担任での運営ができるまでに移行できた。プログラムの運営については、本年度は「ギャップの王様」を学外オリエンテーションで行い、その 1 コマをレポートの書き方やプレゼンテーションの方法など、タクナルのプログラムにない、初年次教育の内容を組み込んでいった。次年度は、社会人としてもマナーを第 1 回目に組み込む予定である。タクナルの運営については、研修を受けた教員が少なくなっているため、12 月にリアセックの研修を企画し、スキルアップを行った。

キャリア教育 I に関しては、新カリキュラムからは合同科目をやめて看護学部での科目の組み立てを行った。新しい企画としては、「次年度に万聖祭を企画・運営するための現地調査」を取り入れた。万聖祭の参加者調査・満足度調査・先輩である学友会メンバーからの話などを聞き、実際の企画・予算などを発表した。

新カリキュラムの DP に合わせて、単元の組み立てを行った。次年度は、この内容をもう一度行い評価をする予定である。

- 2) ワーキング B: 主に、2 年生のキャリア教育Ⅲ・Ⅳ・卒業研究を担当した。キャリア教育Ⅳに関しては、3 年目の運営であり、教務委員会と 4 年生担任、研究促進委員会が協働して、役割分担しながら企画・運営を行った。キャリア教育Ⅲおよび卒業研究ゼミの決定に際しても問題なく振り分けができた。また、最終 15 コマでは、4 年間のキャリア教育で培った力について、学年目標の振り返りから自己の成長を確認したことで、自信をつけることができた。次年度からは、ディプロマサプリメントを卒業時だけでなく、各学年で作成することになり、4 月の目標設定の時に、DP の再確認をおこない、継続した目標設定と成果を振り返り、自己の成長を把握しやすいように勧めていく予定である。

- 3) 時間割り作成は、対面での授業ができたことにより、いままで通りに戻すことができた。ただし新カリキュラムになり、8 コマ授業が多くなったことで、1 年生に関しては日案の時間割を作成することとなった。時間割配信も履修登録までに前期・後期に配信できた。試験時間割に関しても定期試験の 1 か月前までに配信することができた。

対面での試験の実施はできたが、濃厚接触者・感染者が多くなり、追試験についてもすべて対面で行う事としたために、追試験期間が例年に比べて 4～6 日必要であった。

また、発熱者や濃厚接触者・感染者の授業保障についてのルールを取り決めと届け出の用紙を作成し、学生が、試験を受けられるように調整を行った。また次年度の履修要項については、学修支援について・試験の受験資格等について明文化して追加を行った。

学年歴は、次年度から新カリの学生が 2 学年となることよりターム制の導入の検討を行った。

5. 次年度の課題

- 1) 感染状況に応じて、感染対策を講じながら対面授業を基本として運営を行っていく。また 5 月からの 5 類相当の分類となることを予測し、3 年前の状態での授業体制とし、必要時科目の責任において授業保障を続けていく。
- 2) 2023 年度、新カリキュラム 2 年目となるにあたり、旧カリと新カリキュラムの読み替えを見える化して、学生の不利益が起らないようにする。特に 130 単位から 124 単位への卒業要件が変更になることや、同じ科目名でも単位数が違うため、読み替えのできない科目に対しては、担当者との調整をおこない別授業を依頼していく。次年度も新カリの学生との履修方法が違うことなどの説明を、他委員会、教務課と連携しながら進めていく。
- 3) キャリア教育 I～Ⅳの科目担当を、教務委員はコーディネーター役に回り、各学年の担任に移行をする。キャリア教育 I は内容の継続、Ⅱは新しい内容、Ⅲは新カリに伴い内容の検討を行い、教員の誰しもが担当できるようにする。

以上、委員会活動の 1 年間の活動を振り返り、内部質保障のための自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-2 学生委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：安孫子尚子
- 2) 委 員：花原恭子（1），村井博子（2），小林菜穂子（3），森野美由紀（4）（学年）

2. 所掌事項

- 1) 学生委員会を開催
- 2) 学年担任と学生指導・支援及びチューターとの連携
- 3) 長期休暇前の生活指導
- 4) 学生課との連携協力
（①学生表彰 ②就職支援 ③学友会 ④新入生オリエンテーション ⑤奨学金
⑥クラブ ⑦学生の生活・学習環境 ⑧学生便覧）
- 5) 万聖祭への参加協力
- 6) 卒業パーティー協力
- 7) 全学学生委員会との連携協力
- 8) 教育後援会への出席(委員長)

3. 委員会活動

回数	年 月 日	議題，内容等
	毎回	担任報告（気になる学生，学習支援状況）
1	2022 年 4 月 1 日（金）	1. 2022 年度スケジュール 2. 担任（チューター）業務の確認 3. 学生ガイダンス，オリエンテーションの役割分担
2	2022 年 4 月 18 日（月）	1. 学生委員会の体制図と業務分担 2. 学長表彰について 3. チューターによる面接（記録）について 4. 感染症対策（1 年生の健康チェック確認）
3	2022 年 5 月 13 日（金） ～15 日（月）	（情報共有：メール会議） 1. チューターによる面接状況 2. 全学学生委員会報告（役割分担）
4	2022 年 6 月 10 日（金）	1. 感染症対策（4～5 月）の振り返り 2. 全学学生委員会報告（万聖祭，環びわ湖地域コンソーシアム，障がいのある学生への支援）
5	2022 年 7 月 11 日（月）	1. 学年ガイダンスの確認（試験終了後に実施予定） 2. 全学学生委員会報告（近隣苦情への対応）
6	2022 年 8 月 31 日（水）	1. 学生調査の実施状況 2. 全学学生委員会報告（交通安全週間，万聖祭）
7	2022 年 9 月 21 日（水）	1. チューターによる面接状況 2. 全学学生委員会報告（交通安全週間活動，自己評価，中間目標・中間計画）
8	2022 年 10 月 13 日（木）	1. 万聖祭進捗状況

9	2022 年 11 月 2 日（水）	1. 万聖祭進捗状況について 2. ちょっと一言意見箱の返答について
10	2022 年 12 月 19 日（月）	1. 2023 年度予算について 2. 後期試験終了後の学年ガイダンスについて
11	2023 年 1 月 13 日（金）	1. 後期試験終了後の学年ガイダンス（スケジュール） 2. 1 年生の SNS 拡散問題 3. 全学学生委員会報告（意見箱，クラブ活動費）
12	2023 年 2 月 2 日（木）	1. 担任業務確認（面談，復学，休学の所見作成） 2. 学長奨励表彰の推薦について 3. 就職ガイドブック（来年度分の作成）
13	2023 年 3 月 6 日（月）	1. 卒業パーティーについての報告確認
14	2023 年 3 月 27 日（月）	1. 来年度の予定 2. 2023 年度オリエンテーションについて 3. 卒業パーティーについての報告確認 4. 各学年担任報告及び 1 年間の総括

4. 委員会総括

1) 担任とチューターの連携について

委員会では、定例的に学年担任長による気になる学生と学年で行っている学習支援状況について情報共有している。今年度からは、チューターグループによる学生面接を実施した。教員が授業や実習時でもグループで対応する試みである。チューターによる面談は前期/後期の 4 回としていたが、十分な回数の面談が行えていない現状がある。また、面談内容を担任が把握し支援に結びつくには時間を要するために連携頻度や方法の検討が必要である。

2) 担任を中心としたイベント（学外オリエンテーリング，フォトコンテスト）

彦根市の理解，学生同士の交流を目的とした 1 年生のオリエンテーリングは 2 年目となる。一部タクナル（チームビルディング）を取り入れ、目的を果たすことはできた。しかし、他学年でのイベントは実施できていなかった。感染症状況は変化し、今後は、各学年における交流の機会を検討する。また、2023 年度は学外オリ（彦根城）を実施せず、大学を中心としたオリを検討する。

3) 学生を中心としたイベント企画とその実施（卒業パーティ）

学位授与式終了後、ホテル＆リゾート長浜にバスなどで移動し、卒業パーティーを実施した。2 時間の卒業パーティーの企画と運営は 4 年生の卒業パーティー委員が中心となり 4 年生担任が支援しながら実施ができた。各領域教員からゼミ生に送られる動画作成にご協力いただき感謝申し上げる。

4) 学友会活動について

今年度の学友会活動は、万聖祭（11/12）の企画，準備，当日運営であった。3 年ぶりの活動再開であり、学友会と万聖祭実行委員との役割の混同，当日の役割分担方法など課題は残った。また、学友会の予算執行担当部局との調整，教員の役割についても直前まで具体的にならず手間取る姿が伺えた。2023 年度も万聖祭は 1 日開催予定である。2022 年度の活動を振り返りながら行う予定である。以上，上記の問題点を確認し，次年度の学生委員会の役割について取り組む課題として確認した。

2-3 国家試験対策委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：大久保仁司
- 2) 委 員：平田美紀，井之口文月，後藤直樹，後藤則子，川橋けい子，佐伯興平
事務局：山川直美

2. 所掌事項

- 1) 国家試験対策に関すること
- 2) 看護師国家試験に関すること
- 3) 保健師国家試験に関すること

3. 委員会活動

回数	年 月 日 (曜日)	議題, 内容等
1	2022 年 4 月 7 日(水)	・国試対策委員会の役割について ・2022 年度国試対策年間計画について ・強化対象者の選出と支援について ・低学年の対策について ・保健師対策について ・過年度生の対策について
2	2022 年 6 月 (メール会議)	・国家試験関連 HP 運用について ・国家試験対策（専門基礎編）；でた問単元担当者 ・2 年生の模擬試験対策について
3	2022 年 7 月 14 日(木)	・4 年生の対策について ・低学年の対策について ・保健師の対策について ・図書選定について ・各学年ガイダンスにつて ・保健師対策について
4	2022 年 8 月 23 日(火)	・4 年生国家試験対策について ・東京アカデミー講習会運営について ・図書選定について ・低学年対策について（模擬試験を含む）
5	2022 年 10 月 13 日(月)	・4 年生国家試験対策 ・模擬試験の自己採点について ・低学年対策について ・保健師対策について
6	2022 年 11 月 10 日(木)	・4 年生国家試験対策について ・低学年の国試対策について ・次年度の予算計画について ・多賀大社参拝について
7	2022 年 12 月 19 日(火)	・4 年生国家試験対策について ・卒業生の対策について ・低学年の対策について ・多賀大社参拝について ・受験票渡し・激励会について

8	2023 年 1 月 19 日(木)	・ 4 年生国家試験対策について ・ 保健師対策について ・ 低学年対策について ・ 多賀大社参拝について ・ 受験票渡し激励会について
8		・ 受験票渡し・激励会について ・ 東京アカデミー次年度の計画及び日程について
9	2023 年 3 月 24 日(木)	・ 合格発表の確認と対応 ・ 次年度の引継ぎ

4. 委員会総括

1) 国家試験サポートについて

4 月最初に国家試験ガイダンスを実施し、国試の概要と本学の対策および費用について説明した。本年度も、コロナ禍の影響を受けて保護者向けの説明会は実施しなかった。その代わり保護者向けの HP を開設し、HP を通じて年間の動き等を案内し、費用を含め保護者様の協力をお願いした。

東京アカデミーによる国試対策 5 年目であり、東京アカデミーの低学力者向け講座、夏季・冬季講習の受講をするよう伝えた。9 月からの東京アカデミー対策講座は昨年引き続き松本講師に一本化でき、学生の反応に応じた講義構成だったので、学生からも好評であった。

保健師対策は地域看護領域が主体となり対策講座を行った。ダブル受験の学生へは地域領域から面接を行い全員受験することが確認された。

2) 模擬試験について

看護師国家試験は、東京アカデミー（必修、第 1～3 回）、メディカ（第 3 回）を行った。また、希望者に対して、チャレンジテスト（テコム）、必修模試（テコム）を追加で実施した。

保健師国家試験対策については、ほけもし（3 回）を行った。

3) 強化対策について

学内強化対策対象者は、3 年前期までの成績、課題への取り組みと、第 111 回国家試験解答結果を参考に選定した。コロナ禍の影響を受けて、学内での支援は困難であったため、ゼミと連携し、自宅学習を進めるようにした。また、でた問の基礎問題について、担当教員が問題の解説を行い、マナバでオンデマンド対応した。さらにゼミと情報共有し連携を図った。夏までの課題として、過去問を 3 周解くように計画したが、達成にばらつきがみられた。強化対象者については、それぞれの模擬試験毎に対象者を選定し、2 回程度学生面談を行い、その内容をゼミと共有した。1 月以降も学習環境を調整し、さらに各領域毎に学習支援を行ったが、約半数の学生が大学で学習した。

4) 低学年対策について

低学年への国試対策として、3 年生には 8 月にテコムの低学年模試を実施した。また、夏期休暇を利用して問題に取り組めるようマナバを活用した支援を実施した。

5. 次年度の課題

1) ～ 3) の対策を実施した。結果、今年度の現役生の合格率は、看護師 92.8%、保健師 96.7%であった。合格率は、昨年度より、看護師は低下、保健師は向上したが、いずれも全員合格には至っていない。昨年度より充実した支援を行う一方で、学生の主体性を引き出し、皆で全員合格を目指すという環境づくりをし、引き続き全員合格を目指していくことを課題として確認した。

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-4. 実習調整委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：中島真由美
- 2) 委 員：高島留美，花原恭子，村井博子，後藤則子，佐藤綾野，村山仁衣菜

2. 所掌事項

- 1) 委員会運営に関する業務：各ワーキングに関する業務
 - ・ワーキング A：臨地実習要項の調整，実習施設管理者・指導者会議の企画運営
 - ・ワーキング B：実習オリエンテーション，実習ローテーション表作成，学校協議会との調整
 - ・ワーキング C：地域統合実習要項及び報告書作成，予算，インシデント報告

3. 委員会活動

回	年 月 日(曜日)	議題(テーマ)・内容	備考 出席者人数
1	令和 4 年 4 月 7 日(木)	年間活動計画，定例委員会の決定と議事録書記担当，実習施設管理者・指導者会議の企画運営の確認と実習到達度と課題の様式について，地域統合実習について，2022 年度・2023 年度の実習ローテーション表の確認	7 名
2	令和 4 年 5 月 13 日(金)	実習到達度と課題について，実習施設管理者・指導者会議の企画運営の確認，2022 年度・2023 年度実習ローテーション表(案)の確認，地域統合実習施設確認	6 名
3	令和 4 年 6 月 2 日(水)	実習ローテーション表について，実習における新型コロナウイルス感染対策マニュアルの見直し，実習施設管理者・指導者会議の企画運営の確認，地域統合実習報告書の締め切り確認，予算報告	7 名
	令和 4 年 6 月 8 日(水)	実習施設管理者・指導者会議の実施	
4	令和 4 年 7 月 8 日(金)	実習施設管理者・指導者会議の振り返り，実習オリエンテーション(案)の検討，学生名入りの 2022 年度実習ローテーション表・2023 年度実習ローテーション表の確認，地域統合実習の評価方法の確認，予算報告	6 名
5	令和 4 年 9 月 9 日(金)	3 年生臨地実習オリエンテーションの検討，2022 年度確定版の実習ローテーション表の検討，地域統合実習報告書の提出状況，新型コロナウイルスによる実習受け入れに関する状況確認	6 名
	令和 4 年 9 月 22 日(木)	3 年生への臨地実習オリエンテーションの開催	
6	令和 4 年 10 月 6 日(木)	次年度の実習施設管理者・指導者会議の講演テーマ検討，9 月の臨地実習オリエンテーションの振り返り，共通要項・各領域実習要項(案)の準備依頼，各領域の臨地実習の実施状況の共有	7 名
7	令和 4 年 11 月 4 日(金)	2023 年聖泉大学実習施設管理者・指導者会(案)検討，共通要項(案)の検討，2023 年度ローテーション表について看護学校協議会との連携結果確認，地域統合実習要項の確認，臨地実習の状況の共有	6 名
8	令和 4 年 12 月 14 日(水)	2023 年度聖泉大学実習施設管理者・指導者会議(案)，新	5 名

		カリキュラムにおける導入実習・統合実習Ⅱの実習要項作成領域, 2023 年度予算（案）	
9	令和 5 年 1 月 6 日(木)	臨地実習要項原稿の提出期日確認, 2023 年度聖泉大学実習施設管理者・指導者会議（案）の検討, 地域統合実習要項（案）の校正確認, 実習のインシデント報告, 臨地実習の状況の共有	6 名
10	令和 5 年 2 月 3 日(木)	臨地実習要項原稿の提出状況確認, 2023 年度聖泉大学実習施設管理者・指導者会議（案）の検討, インシデント報告への対応検討, 臨地実習状況の共有, 実習用白衣のデザイン変更, 2024 年度ローテーション表（案）作成	6 名
11	令和 5 年 3 月 1 日(水)	2022 年度活動の振り返りと次年度への課題整理（各ワーキング活動年次報告, 委員会年次報告（案）の確認）, 臨地実習状況の共有	7 名

4. 委員会総括

昨年度は負担の偏りがあったと考えられたワーキングの活動内容の分担を見直した結果, 各ワーキングの活動により運営はスムーズに進んだ. 2 年にわたり中止されていた実習施設管理者・指導者会を実施することができた. 今年度は新カリキュラムにおける実習についての説明や, コロナ禍における実習の意見交換を行い, 次年度以降の開催については外部講師を招いての講演会を検討した. 実習ローテーションについては, 新カリキュラムによる実習スケジュールの変更に伴う他施設との重複がみられ, 該当領域で対応がされた. 共通要項は新カリキュラムへの対応を再確認した. 地域統合実習報告書の様式のばらつきについては PDF 化による提出とし, 冊子として保存しなかったことから, 各指導担当者の裁量に任されることとなり, 委員会としては問題とならなかった.

昨年度に引き続き新型コロナウイルス（COVID-19）により実習の受入れの影響はみられたが, 各領域で実習内容の変更等の対応がなされていた. また, 実習施設へのバスの中止連絡などについて, 学内での授業が遠隔対応されることが影響し, 教務課と密な連携が必要であった.

今後の課題

- ・実習施設管理者・指導者会の実施にあたり, 当日の進行内容の詳細を検討する.
- ・実習におけるインシデント・アクシデント防止のための情報共有や, 効果的な実習オリエンテーションの在り方の見直しを行う.
- ・感染状況の遷延に伴う, 学生の感染対策への注意喚起を繰り返し行う.
- ・学生の新しい実習用ユニフォーム（白衣）と実習用靴の検討を行う.
- ・実習施設へのバスの運行・中止の条件や連絡方法の再確認を行う.

以上, 上記の問題点を確認し, 次年度の実習調整員会の役割について取り組む課題として確認した.

2-5 FD委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：川嶋元子
- 2) 委員：安孫子尚子，花原恭子，高島留美，川端愛野

2. 所掌事項

- 1) 委員会運営に関する業務
- 2) FD 委員会の本年度の計画・実施

3 委員会活動

(委員会日程)

回	年/月/日（曜日）	議題(テーマ)・内容	備考 出席者人数
1	2022 年 5 月 11 日（水）	第 1 回 委員会開催 本年度の活動：学部中心とする ・公開授業について ・学習会について ・予算について	5 名
2	2022 年 6 月 6 日（月）	第 2 回 委員会開催 ・公開授業に関する役割分担について ・学習会に関する役割分担について ・外部講師の招聘について	5 名
3	2022 年 7 月 6 日（月）	第 3 回 委員会開催 ・学習会：ティーチングポートフォリオの動画視聴について ・公開授業参観の期間と参加方法について (実施計画：10 月 17 日～11 月 11 日)	5 名
4	2022 年 7 月 13 日（水）	・ティーチングポートフォリオ動画視聴 (研修会前の学習会)	18 名
5	2022 年 8 月 23 日（火）	・ティーチングポートフォリオ作成 (研修後の学習会)	7 名
6	2022 年 10 月 4 日（火）	第 4 回 委員会開催 公開授業：参観方法，参加後の提出物，授業担当者の役割を検討した 学習会：12 月以降に看護過程に関する学習会開催の決定をした	5 名
7	2022 年 11 月 10 日（木）	第 5 回 委員会の開催 ・授業参観を終えての結果・評価 ・看護過程の学習会：スケジュールの検討	5 名
8	2022 年 12 月 22 日（木）	第 6 回 委員会の開催 ・令和 5 年度 看護学部 FD 予算について ・看護過程の学習会：当日の役割分担	5 名

8	2022 年 12 月 26 日(月)	・看護過程の学習会の開催	24 名
9	2022 年 3 月	2022 年度の活動報告と総括 今後の課題	4 名

1) 公開授業

公開授業の目的は、多くの専門科目の授業参観を行うことで自分自身の授業改善のために新たな授業等の知見を得ることとした。授業参観の方法として、10 月 17 日～11 月 11 日の期間に、自身の関心のある講義を参観していただいた。看護学部教員は学部の講義に必ず 1 回は参加すること、大学院の講義は、自由参加とした。結果専任教員 26 名中 20 名の参加があった。授業参観終了後のアンケートには 16 名の回答があり、回収率は 61.5%であった。

アンケートの結果は、他の専門科目の授業参観を行うことで、自分自身の授業改善に役立てられたと回答した者が 93.8%であった。また、他の専門科目の授業参観を行うことで、新しい授業法等の知見を得られたと回答した者が 87.5%であった。

大学院の講義については、原書購読の参観者が 1 名であった。

2) 看護過程に関する学習会

学習会の目的は、各領域でどのような方法、内容、スケジュールで教えているのかを情報共有し、自身の領域の看護過程の展開に役立てることとした。学習会の参加者は 24 名であった。

4. 委員会総括

公開授業は、コロナ禍のため参加者を制限、少人数制となったが、アンケート（授業評価）は、今後の授業改善・向上に繋がるため、実施者及び領域へフィードバックした。

学習会は、予め全教員へアンケートを行い、希望が多かった教授法～評価を 5 回に分け、委員が教材を担当。とくに助手・助教の教員にとって、授業の基本的認識や学生指導の難しさなどを共有、意見交換の機会となり、個々の教育力向上のみならず領域の研鑽に繋がった。

講師招聘は、思考力を育て、自ら行動できる学生の育成に向けた内容で展開、好評であった。研究科の学生を含めたロイ理論の活用講演は、看護教育方法の新たな知見を学んだ。

今後の課題

学部カリキュラム、教育理念、目標から個人及び組織が大学の方向性などを含め議論する機会があれば、組織的・継続的な教育改革・発展に繋がる。活動をさらに発展させていく。

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い委員会として機能していることを確認した。

2-6 学術誌編集委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：安田千寿
- 2) 委員：平田美紀，前田寿美，馬場好恵，川端愛野，山川直美

2. 所掌事項

- 1) 学術誌の編集と出版
- 2) その他，学術誌等に関すること

3. 委員会活動

回	年月日（曜日）	議題(テーマ)・内容	備考
1	2022 年 4 月 14 日(木)	1. 年間活動計画の確認と検討 2. 学術論文申請書の提出方法と期限の設定 3. 委員会活動の役割分担 4. 英文校正の担当依頼について 5. ホームページへの掲載準備	
2	2022 年 8 月 5 日(金)	1. 学術論文申請状況の確認 2. 申請論文の委員担当決定	
3	2022 年 9 月 22 日(木)	1. 投稿論文の査読者の決定 2. 論文に対するイニシャルチェック 3. 訂正が必要な論文の返却の手続き	
4	2022 年 9 月 29 日(木)	1. 訂正があった論文の内容確認 2. 執筆者への論文受理通知の発送 3. 査読者への論文発送作業	
5	2022 年 10 月 28 日(金)	1. 査読者からの査読結果の確認 2. 執筆者への査読結果通知，論文返却作業	
6	2022 年 11 月 29 日(火)	1. 査読後修正論文の受理と確認 2. 査読者への発送作業（再査読） 3. 英文校正の依頼	11/8：竹村先生 による英文抄録 作成の講義
7	2022 年 12 月 23 日(金)	1. 査読者からの査読結果（2 回目）の確認 2. 執筆者への査読結果通知，原稿修正の依頼 3. 出版社への見積り依頼	
8	2023 年 1 月 24 日（火）	1. 執筆者からの論文提出確認（最終版） 2. 論文種別と掲載順の決定 3. 査読者への掲載種別の報告とお礼 4. 印刷業者との打合せと校正作業	実習期間により 学内で対応でき る委員を招集し 活動を継続した
9	2023 年 2 月 13 日（木）	1. 論文校正 1 回目：執筆者へ論文返却 2. 表紙等校正	
10	2023 年 2 月 27 日（月）	1. 論文校正の確認と印刷業者への返却作業	
11	2023 年 3 月 7 日（火）	1. 論文校正 2 回目：執筆者へ論文返却	
12	2023 年 3 月 10 日（金）	1. 校正 2 回目の原稿確認 2. 印刷業者へ原稿の引き渡し作業	
13	2023 年 3 月 22 日（水）	1. 製本完成 最終原稿の引き渡し	

4. 委員会総括

今年度も例年通り 3 月下旬を製本完成として年間スケジュールを立て、各委員および執筆者の協力のもと、スケジュール通り進行することができた。3 月下旬に「聖泉看護学研究 vol.12」が発刊される。

執筆者は本学の大学院を卒業した外部所属の方と本学所属の教員とに分かれるため、ホームページの活用と院生の指導教員の案内により、投稿募集に時差や漏れが生じないように留意した。

本年度の申請数は 13 件、学外所属の筆頭執筆者 2 件、本学教員が 11 件であった。論文の投稿は受理申請から 1 件減って 12 件となった。原稿が間に合わないとの理由であった。

委員会ではこれまで同様に、原著と研究ノートの種別に対し外部の査読者 2 名を選定し依頼した。2 名の審査委員で査読結果が異なる論文に対して、2 度目の論文修正期間に第 3 者の査読者をたて論文種別を検討する手助けとした。結果、原著論文 3 件、研究ノート 5 件、資料 2 件、その他 2 件となった。査読者から「査読への回答がわかりにくい」「査読判定の項目の【不適切】の表現は強すぎる」という意見をいただき、項目別判定理由は「不適切」から「要検討」へと表現の変更を行った。回答書作成における見本の見直しは次年度にむけての検討項目としている。また、APA にもとづく投稿規程、執筆要領について日本語の最新版が発刊され次第見直すことも検討課題である。

英文抄録および英文タイトルとキーワードの作成・設定においては、今年度も竹村玲子先生のご協力を受けた。竹村先生のご厚意により、英文校正における留意点等についての研修会を開催し 7 名の参加があり、理解を深める機会となった。また、今年度より英文抄録の作成においては 2 度目の修正論文の投稿時期をホームページ上で明文化し、チェックリストにも表示していたが間に合わない執筆者が多くあった。専門分野の査読者に英文をみていただく機会を確保することの理解を、執筆者へ求めていくことも次年度の課題である。

以上より、委員会活動の一年間の活動を振り返り、所掌事項とすりあわせ自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-7 広報委員会

1. 構成メンバー

委員長：小林菜穂子

委員：大久保仁司, 漆野裕子, 馬場好恵, 大塩佳名子, 川端愛野, 佐伯興平,
中村美由紀, 岸本沙希, 村山仁衣菜, 吉田猛, 宮川華, 今宿團（敬称略）

2. 所署事項

- 1) 看護学部の実践活動に関する活動における各部局との連絡調整に関すること
- 2) 高校訪問, オープンキャンパス等の計画, 実施に関すること
- 3) ホームページの企画・記事記載に関すること
- 4) 高大連携事業の運営に関すること

3. 委員会活動

	日 時	主 な 協 議 事 項
第1回	2022 年 4 月 4 日	1. オープンキャンパスの日程（年間, 5 月） 2. 入学時アンケート 3. HP 等掲載年間計画 4.4 月の高大連携（八幡高校） その他：委員会年間スケジュール, 規定の確認等
第2回	2022 年 5 月 9 日	1.5 月のオープンキャンパス 2. 新入生のアンケート結果 3.4 月高大連携（八幡学校）のアンケート 4. 進学説明会について, 県内高校訪問について その他：ドローン撮影について
第3回	2022 年 6 月 6 日	1.オープンキャンパスでのコロナ対応 2.6 月高校教員対象説明会について 3. オープンキャンパス振り返り, 7.8 月の企画について その他：在学生掲載のミニポスター, 国家試験関連の HP 運用
第4回	2022 年 7 月 11 日	1.次年度パンフレットについて 2.FM 彦根ラジオ収録 3.6.7 月のオープンキャンパス振り返り 4.8 月オープンキャンパス DX の企画 5. 学生広報委員会活動報告 6. HP, Facebook 記事の進捗状況 7.8 月の八幡高等学校との高大連携について その他：特別奨学金の動画（LINE メッセージ風）について
第5回	2022 年 8 月 23 日	1.8 月のオープンキャンパス振り返り 2.9 月のオープンキャンパス企画案 3.8 月八幡高校高大連携講座について 4.学生広報委員会（インスタグラムの記事作成など） その他：新チラシについて（保健師, 助産師, 防災士）
第6回	2022 年 9 月 7 日	1. 彦根総合高等学校 学校見学会について 2. 次年度大学パンフレットについて（看護学部単科） 3.大学パンフレット学生候補案 4.9 月オープンキャンパス振り返り, 10 月企画について 5.8 月八幡高校高大連携講座振り返り・アンケート結果 その他：オープンキャンパス参加者の年度別参加者推移など
第7回	2022 年 10 月 3 日	1. 長浜北星高校 PTA 学校見学 2.10 月オープンキャンパス振り返り 3.9 月八幡高校との高大連携講座報告 4.大学パンフレット学生候補案 その他：高校内ガイダンス・模擬授業等の進捗状況について

第 8 回	2022 年 11 月 2 日	1.大学パンフレット構成案、製作スケジュールについて 2.八幡高校との高大連携講座の調整（12 月分）11 月八幡高校との評価会議報告含む 3.学生広報委員会報告 4.3 月私立高等学校との連携講座について
第 9 回	2022 年 12 月 1 日	1.次年度オープンキャンパス予定案 2.大学パンフレットの進捗 3 学生広報委員会報告 4.12 月の八幡高校との高大連携講座について 5.3 月の私立高校講座の進捗状況 その他：記事依頼（滋賀県医療政策課より）など
第 10 回	2023 年 1 月 6 日	1.次年度オープンキャンパスの決定報告 2. 大学パンフレットの進捗状況報告 3.3 月のオープンキャンパスについて 4. 次年度 OC 模擬授業・看護体験テーマ提出状況 5.学生広報委員会報告 6. 私立高等学校との連携講座案について その他：次年度前半の各領域での OC プログラムの内容など
第 11 回	2023 年 2 月 10 日	1.大学パンフレットの進捗報告 2. 夢ナビライブについて 3.3 月オープンキャンパス 担当者の動きについて 3. 次年度 OC 模擬授業・看護体験テーマ出状況 4. HP, Facebook 記事の進捗状況 5. 私立高等学校との連携講座案について 6.2023 年度 八幡高校高大連携スケジュール（年 6 回） その他：次年度の入試広報に関する情報、感染対策について
第 12 回	2023 年 3 月 24 日	1.次年度大学 HP 案 2.3 月オープンキャンパス最終確認 3. 学生広報委員会 4.4 月入学時のアンケートについて 5. HP, Facebook 記事年間報告 6. 私立高等学校との連携講座最終案について 7.2023 年度八幡高校高大連携スケジュール（4 月 8 月確定） その他：各ワーキングの活動報告など

4. 委員会総括

今年度も新型コロナウイルス感染症対策をしながら、オープンキャンパスの運営を行い、全予定を実施できた。また、入試変更に伴う入試相談表の対応など、入試対策委員会とも連携し運営した。今年度現時点の入学予定者は 91 名となっており、次年度も高校生にとって分かりやすく・資格取得など聖泉大学の特色をいかした活動を行っていく。感染対策についても緩和報告となっているが、今後の動向を注視しながら行っていく。

八幡高等学校との高大連携講座についても予定内容を実施し、高校との評価会議を行いながら、次年度も今年度の内容を継続した形で進めていくこととなっている。3 月末の私立高校との連携講座では、開始した当初は私学 3 校との連携講座としていたが、今後は提携高校も増やし、3 校に限った活動とならないため、名称を「私立高等学校と聖泉大学の連携講座」に名称変更し、企画運営を行った。今年度は 2 校の参加のみとなったが、次年度も継続して運営をしていく。

学生広報委員会は、今年度はInstagramでの記事投稿を行った。次年度は、動画作成や学生間の情報発信では、line の方が良いのではないかという意見もあり、引き続き、どのメディアで発信していくのか学生の意見をヒアリングしながら運営していく。また、HP, Facebook 記事については、次年度から、大学全体で共通のフォーマットとして運用していくため、記事内容の確認もアドミッション室に集約されることになるが、記事依頼は従来同様にワーキングでの役割を担っていく。

また、今年度は、学内でのイベントと重なることがあり、人員不足になることもあったため、調整しながら進めていく必要がある。大学パンフレットや HP については、看護学部単科となっていくに合わせて今後も修正内容が発生すると予測される為、全学広報委員会やアドミッション室と連携をとりながら行っていく。

以上、委員会活動の 1 年間の活動を振り返り、内部質保障のための自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-8 キャリアアップセンター委員会・研究促進

2-8-1 キャリアアップセンター委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：平田美紀
2) 委員：西山ゆかり，森野美由紀，井之口文月，大塩佳名子，後藤則子，川橋けい子

2. 所掌事項

1) キャリアアップセンター

- ①講座ビギナーコース・アドバンスコースに関する事項
②卒業生研修会に関する事項

3. 委員会活動

回数	年 月 日	議題，内容等	備考
1	令和4年4月18日（月） 10：40～12：00	1. キャリアアップ委員会の役割分担・活動計画について 2. ビギナーコース，アドバンスコース講座内容について 3. 卒業生研修会について	
2	令和4年5月27日（金） 15：50～16：15	ビギナーコース第1回開催（9：15～16：00） 1. 講座の振り返り 2. 第2回の役割分担，必要物品の購入手配等	参加者 14名
3	令和4年6月7日（月） 10：00～12：00	1. 卒業生研修会の案内および日程について	
4	令和4年6月24日（金） 16：30～17：00	ビギナーコース第2回開催（9：30～16：00） 1. 第2回講座の振り返り 2. 第3回講座のタイムスケジュールについて	参加者 14名
5	令和4年7月12日（火） 16：30～17：55	1. 第2回講座のアンケート結果報告 2. 第3回講座のタイムスケジュール 3. 第3回の役割分担，講座開催中の委員配置 4. 個別研究サポートの領域配分，教員への依頼について 5. 卒業生研修会案内文配送について	
6	令和4年7月29日（金） 16:00～16：45	ビギナーコース第3回開催（9：30～16：00） 1. 第3回講座の振り返り 2. 個別研究サポートの役割分担 3. 卒業生研修会の案内文郵送について	参加者 19名
7	令和4年8月25日（木） 16：30～17：00	ビギナーコース第4回開催（9:30～16：00） 1. 第4回個別研究サポートの振り返り 2. アドバンスコースの役割分担，物品の購入手配等	参加者 13名
8	令和4年8月26日（金） 16：00～16：30	アドバンスコース開催（9：30～16：00） 1. 講座の振り返り 2. 令和4年度活動報告書作成の役割分担の確認	
9	令和4年9月12日（月） 16：20～17：30	1. 卒業生研修会について 2. 令和4年度の活動報告書について	

10	令和 4 年 10 月 3 日（月） 16：30～17：40	1. 卒業生研修会について 2. 令和 4 年度の活動報告書について	
11	令和 4 年 11 月 7 日（月） 16：30～18：00	1. 卒業生研修会について 2. 令和 4 年度の活動報告書について	
12	令和 4 年 11 月 12 日（土） 14：00～15：30	卒業生研修会 「臨床でモチベーションを維持して働き続けるために」 ～看護職メンタルヘルスについて Part2～	参加者 24 名
13	令和 4 年 12 月 6 日（月） 16：30～17：15	1. 卒業生研修会（卒後 1 年目）について 2. 令和 5 年度予算案について	
14	令和 5 年 1 月 12 日（木） 16：30～17：15	1. 卒業生研修会（卒後 1 年目）について 2. 令和 4 年度の活動報告書の内容確認 3. 令和 4 年度キャリアアップ講座開催日の検討	
15	令和 5 年 2 月 10 日（木） 16：30～17：15	1. 卒業生研修会（卒後 1 年目）の中止について 2. 令和 4 年度の活動報告書の内容確認 3. 令和 5 年度キャリアアップ講座申し込み方法について 4. キャリアアップ講座、卒業生研修会の内容の検討	
16	令和 5 年 3 月 2 日（木） 14：00～15：00	1. 令和 5 年度 キャリアアップ講座案内の発送	
17	令和 5 年 3 月 10 日（金） 15：30～16：30	1. 令和 4 年度の活動報告書の内容確認	

4. 委員会総括

キャリアアップ講座ビギナーコースでは、看護研究の方法から研究相談までを 4 回開講し、アドバンスコースでは、基礎的な統計について 1 回開講した。アドバンスコースへの応募要件を、前年度までにビギナーコースを修了せずとも応募可能とした。受講者のアンケートでは満足度が高い評価であった。前年度の課題であったグループワーク時の感染対策では、大学の感染予防行動指針に準じてアクリル板を使用し、2 教室に分かれて対応した。受講者数は募集人数を割っており、コロナ禍での院外研修の参加減少や案内周知が遅いことなどが影響したと考える。よって、令和 5 年度キャリアアップ講座案内を 3 月 2 日に 124 施設へ郵送した。今年度のキャリアアップ講座の受講生から本学大学院への受験に至り、2 名が合格された。研究相談では、3 施設から申し込みがあり、院内・院外の発表において成果報告することができた。また共同研究は 1 件であった。

卒業生研修会は、前年度に引き続き「看護師のメンタルヘルス Part2」として学祭に合わせて開催した。参加者は 24 名であったが、研修会についてのアンケートは良い評価であった。全卒業生へ研修会の案内をしたが返信は少なく、住所や職場が変更されていても追跡できず今後の課題である。卒後 1 年目研修会は参加者がなく中止となったため、令和 4 年度の卒業生へは在学中に研修会の案内と連絡方法を伝え対応した。

委員会活動の 1 年間の活動を振り返り所掌事項とすり合わせ評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-8 キャリアアップセンター委員会・研究促進

2-8-2 研究促進

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：平田美紀
- 2) 委員：西山ゆかり，森野美由紀，井之口文月，大塩佳名子，後藤則子，川橋けい子
研究促進委員会（キャリアアップセンター兼務）

2. 所掌事項

- 1) 2022 年度 看護学部研究助成費の募集と選考準備
- 2) 2022 年度 科学研究費獲得のための学習会
- 3) 2021 年度「学長裁量経費」看護学部研究助成費報告会（2021 年度聖泉大学看護学部卒業研究発表会で教務委員会と合同）の開催

3. 委員会活動

回	月日	議題・内容等
1	令和 4 年 4 月 18 日（月） 10：40～12：00	1. 2022 年度看護学部研究助成費の応募者について 応募者は 6 名であり，5 月教授懇談会で対象者と金額を検討し，教授会で決定することが報告された. 2. 研究促進委員会 科研費獲得のための学習会について
2	令和 5 月 27 日（金） 15：50～16：15	1. 2022 年度委員会活動計画について 2. 2022 年度看護学部研究助成費に関する年間計画 3. 2021 年度看護学部研究助成費報告会（2022 年度聖泉大 看護学部卒業研究発表会で教務委員会と合同）の開催について 4. 科学研究費獲得のための学習会の開催について 5. 委員会の役割分担について 6. 看護学部研究助成費採択の結果報告 2022 年度の採択者は 2 名となった.
3	令和 4 年 6 月 7 日（月） 10：00～12：00	1. 2022 年度研究促進委員会主催科学研究費獲得のための学習会の開催（第 1 回） 1) 科研費の申請書の書き方 講師：平田美紀教授 西山ゆかり教授 2) 開催時間：15:00～16：00 場所：455 教室 3) 参加者：看護学部教員の合計 21 名
4	令和 4 年 6 月 24 日（金） 16：30～17：00	1. 科学研究費獲得のための学習会について 2. 2021 年度「学長裁量経費」看護学部研究助成費報告会 について（看護フォーラム）

5	令和 4 年 7 月 12 日（火） 16：30～17：55	1. 2021 年度「学長裁量経費」看護学部研究助成費報告会 （看護フォーラム）の運営について
6	令和 4 年 7 月 27 日（金） 16：00～16：45	1. 2022 年度研究促進委員会主催科学研究費獲得のための学習会の開催（第 2 回） 1) 科研費の申請書の書き方（グループワーク） 2) 開催時間：15:00～16：00 3) 参加者：看護学部教員の合計 16 名
7	令和 4 年 9 月 12 日（月） 16：20～17：30	1. 2021 年度「学長裁量経費」看護学部研究助成費報告会 （看護フォーラム）の運営について 2. 科研費助成事業応募について
8	令和 4 年 9 月 24 日（土） 13：00～14：30	看護フォーラム 2021 年度「学長裁量経費」助成費研究成果報告 4 名
9	令和 4 年 10 月 3 日（月） 16：30～17：40	1. 看護フォーラムの振り返り
10	令和 5 年 1 月 12 日（木） 16：30～17：15	1. 令和 5 年度看護学部裁量経費について
11	令和 5 年 2 月 10 日（木） 16：30～17：15	1. 令和 5 年度看護学部裁量経費について
12	令和 5 年 3 月 10 日（金） 15：30～16：30	1. 令和 5 年度看護学部裁量経費の応募について

4. 委員会総括

2022 年度看護学部研究助成費への応募案内があり 6 名の応募があり、審査の結果 2 名の研究計画書が採択となった。研究倫理審査の承認後、研究へ取り組み、2023 年度の看護フォーラムにて研究成果が報告できるよう進めている。また、2021 年度の学長裁量経費助成費にて取り組んだ 4 名は、2022 年度に教務委員会と合同で行った聖泉大学看護学部卒業研究発表会の看護フォーラムにて発表した。卒業研究発表会に参加する 3 年生、4 年生が研究方法や発表の仕方を学ぶ一貫とした。同フォーラムでは、看護学部教員の研究成果であるポスターを示説会場にて提示した。ポスター掲示用のパーテーションは 12 枚であり、全領域の研究が閲覧できるよう地域精神在宅・母性小児実習室の 2 会場に分けて設置した。学生は、教員の研究報告に触れることで調査、分析、結果、考察を学ぶことができ、さらに学会をイメージすることにつながった。しかし、発表者の中には講義形式のものもあったため、看護フォーラムの目的や発表形式について周知する必要がある。

科研費助成事業獲得のための学習会を 2 回企画し開催した。参加者のアンケートでは、獲得者の経験や計画書についてのグループワークで応募するための意欲を高めることができたという内容であった。その結果、2 名の採択に至った。獲得に至らなかった計画書は再考し、看護学部研究助成費へ応募しながら競争資金の応募へつなげるよう啓発していく。

委員会活動の 1 年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2022 年度
聖泉大学人間学部
年次報告書

学部教員・委員会

学部教員活動

(2022 年 4 月～2023 年 3 月)

(以下、学部のメンバーの氏名は下線で示してある)

1. 教育活動

唐楽寧 教授

前期：日本語 A、日本語 C、上級日本語総合 A、実用中国語 A (週 2)、実用中国語 (看護)
会計実務、マーケティング、経営学概論、ジョブメソッド、キャリアデザイン B、プロジェクト演習 B、専門演習 B、卒業研究 I 副査

後期：日本語 B、日本語 D、上級日本語総合 B、実用中国語 B (週 2)、経済学、ジョブメソッド、キャリアデザイン B、プロジェクト演習 B、プロジェクト演習 B-秋入、専門演習 B、専門演習 B-秋入、卒業研究 II 副査

李艶 教授

担当科目

前期

「実用中国語 A」「心理学概論 A」「産業・組織心理学」「リスク・危機管理心理学」
「専門演習 A」「専門演習 C」「プロジェクト演習」「卒業研究 I」
「社会心理学」(大学院)

後期

「社会・集団・家族心理学」「異文化間心理学」「消費者心理学」
「専門演習 B」「専門演習 D」「プロジェクト演習」「卒業研究 II」
「家族論」(人間学部、看護学部)

押岡大覚 教授

2 年：「公認心理師の職責」「心理学的支援法」「臨床心理学概論」
3 年：「専門演習 A・B」「プロジェクト演習 A・B」
4 年：「心理演習」「心理実習」
「専門演習 C・D」「プロジェクト演習 C・D」「卒業研究 I・II」

鈴木雅洋 准教授

[担当科目]

心理学研究法 A／心理学研究法、心理学統計法、心理学基礎演習 I、心理学基礎演習 II、心理学実験、知覚・認知心理学、学習・言語心理学、神経・生理心理学、プロジェクト演習 A、プロジェクト演習 B、プロジェクト演習 C、プロジェクト演習 D、専門演習 A、専門演習 B、専門演習 C、専門演習 D、卒業研究 I、卒業研究 II、キャリアデザイン B

富川拓 准教授

【担当科目】

キャリアデザイン A

インターンシップ A、インターンシップ B

基礎ゼミ C、基礎ゼミ D

専門演習 A、専門演習 B、専門演習 C、専門演習 D

プロジェクト演習 A、プロジェクト演習 B、プロジェクト演習 C、プロジェクト演習 D

卒業研究 I、卒業研究 II

社会学概論、ボランティア論、地域社会学、ジェンダー論、家族論、近江での SDGs の実践

多胡陽介 准教授

2 年：「基礎ゼミ C・D」「健康管理学」「発育・発達と老化」

「運動プログラムの理論と実際」「健康運動実習 A (ジョギング・ウォーキング)」

3 年：「専門演習 A・B」「プロジェクト演習 A・B」「スポーツバイオメカニクス」

「体力測定論」「老年看護論」

4 年：「専門演習 C・D」「プロジェクト演習 C・D」「卒業研究 I・II」

小澤克彦 講師

1 年：「表計算（基礎）①②③」「アカデミックライティング A」「情報処理入門③」

「アカデミックライティング B」「表計算（中級）」「統計学①②」

2 年：「キャリアデザイン B」

3 年：「専門演習 A」「専門演習 B」「プロジェクト演習 A」「プロジェクト演習 B」

4 年：「専門演習 C」「専門演習 D」「プロジェクト演習 B」「プロジェクト演習 D」

「卒業研究 I」「卒業研究 II」

森雄二郎 講師

【担当科目】

(1 年次)

キャリアデザイン A / 公共政策論 / 対人コミュニケーション論 / 基礎ゼミ A・B

(2 年次)

滋賀論 / キャリアデザイン B (公務員コース)

(3 年次)

専門演習 A・B / プロジェクト演習 A・B / ジョブメソッド

(4 年次)

専門演習 A・B / プロジェクト演習 C・D / 卒業研究 I・II

山越章平 講師

- 1年：「基礎ゼミ A」「基礎ゼミ B」
- 2年：「スポーツ心理学」「フィットネス・トレッキング演習」「キャリアデザイン B」
- 3年：「専門演習 A・B」「コーチング論」「プロジェクト演習 A・B」
- 4年：「専門演習 C・D」「プロジェクト演習 C・D」「卒業研究 I・II」

池田龍也 講師

- 1年：「心理学概論」「心理学概論 B」「発達心理学」
 - 2年：「感情・人格心理学」「心理的アセスメント I」「心理学基礎演習 I」「小児看護論」
 - 3年：「心理的アセスメント II」「人体の構造と機能及び疾病」「専門演習 A・B」「プロジェクト演習 A・B」「地域看護論」
 - 4年：「心理演習」「心理実習」「専門演習 C・D」「プロジェクト演習 C・D」「卒業論文 I」「卒業論文 II」
- 別科：「ヘルス・コミュニケーション学」

木村大樹 講師

- 1年：「人間関係論（再履修）」
- 3年：「教育・学校心理学」「福祉心理学」「心理的アセスメント II」「専門演習 A・B」「プロジェクト演習 A・B」
- 4年：「心理演習」「心理実習」「精神疾患とその治療」「専門演習 C・D」「プロジェクト演習 C・D」「卒業研究 I・II」

山堀貴彦 助教

授業担当科目

前期：「基礎ゼミ A」「キャリアデザイン B」「スポーツ実技 A」「トレーニング演習 B」「健康運動実習 C」「コーチング論」「フィットネス・トレッキング演習」「看護学部スポーツ実技 A（2クラス）」「看護学部スポーツ実技 C」：
後期：「基礎ゼミ B」「キャリアデザイン B」「スポーツ実技 B」「トレーニング演習 A」「健康科学演習（トレーニング）」「トレーニングプログラム作成演習」「健康管理学」「看護学部スポーツ実技 B（2クラス）」

部活動

男子ホッケー部の監督として部員 18 名の指導を行なった。（年間 200 日活動）

【試合結果】

関西学生春季ホッケーリーグ 5 位

関西学生秋季ホッケーリーグ 5位
全日本大学ホッケー王座決定戦 ベスト8
全日本学生ホッケー選手権大会 ベスト24

山口隆介 講師

1年：「現代文化論」「アカデミックライティング A」「アカデミックライティング B」
「哲学」「世界史」
2年：「インターンシップ A」「インターンシップ B」
3年：「専門演習 A・B」「プロジェクト演習 A・B」
4年：「専門演習 C・D」「卒業研究 I・II」「プロジェクト演習 C・D」

2. 研究活動

唐楽寧 教授

「中国内陸部における日系小売企業の事例研究—中堅スーパー平和堂の中国進出と現状を中心に」2023.3 出稿。『現代中国会計の多面的・総合的研究—歴史的・比較制度的分析を踏まえつつ—』に収録予定、編著者：水野一郎、関西大学出版社、2023.10 刊行予定

李艶 教授

【論文】

1. 大学生の心理についての研究 (1) - 大学生の恋愛不安 - 聖泉論叢 No30 Pp.1-17
2. 大学生の心理についての研究 (2) - 限定商品を選ぶ大学生のパーソナリティ特性 -
聖泉論叢 No30 Pp.18-34

【学会発表】

1. 「大学生の親密関係についての研究 - 大学生の恋愛心理 -」
日本心理学会第86回大会
2022年9月8日～9月11日 論文集 ID:PM-055

【2022 国際シンポジウム】

(オンライン形式) 共同発表：

「文化心理学視点からコロナ禍による社会意識の変化を考える—アジアとヨーロッパを比較して-その3」 2022年9月10日

【公益法人日本心理学会 「文化と心理学研究会」活動】

公益法人日本心理学会の「文化と心理学研究会」の代表として、12 年間にわたって研究活動の運営・企画を行った。

2022 年は引き続き「コロナ禍による人々の生活意識の変化・意思決定の変容」をキーワードとして取り上げ、共同研究を行った。その成果は国際シンポジウムにて共同発表を行った。

【公益法人日本心理学会 国際委員会 活動】

公益法人日本心理学会 国際委員会委員として、国際的活動に参加し、越境している人々を研究視野に入れ、国際的研究・支援活動を提言し、活動している。

【多文化関係学】多文化関係学会発行学術雑誌 査読者

押岡大覚 教授

【学会活動】

- 2022 年 4 月 日本人間性心理学会 理事（研修委員会委員）
- 2023 年 2 月 日本人間性心理学会研修委員会主催「研究って楽しいな」講師

【研究活動】

- 北川眞羽・押岡大覚 (2023) 「フォーカシング的態度の変化を指標とした学部公認心理師候補生による試行カウンセリングに関する一考察」 聖泉論叢 30 号 pp.35-49
- 若狭和真・押岡大覚 (2023) 「共感性プロセス尺度の変化を指標とした学部公認心理師候補生による試行カウンセリングに関する一考察」 聖泉論叢 30 号 pp.51-65
- 吉見穂乃花・押岡大覚 (2023) 「共感経験の変化を指標とした学部公認心理師候補生による試行カウンセリングに関する一考察」 聖泉論叢 30 号 pp.67-78
- 多胡陽介・木村大樹・押岡大覚 (2023) 「優れた競技レベルのモルック選手における投てき動作の運動学的特徴－矢状面からの事例的検証－」 聖泉論叢 30 号 pp.79-93

鈴木雅洋 准教授

[学術論文]

<国際会議プロシーディングス、査読あり>

H. Trii, M. Suzuki, K. Uehira, “High-accuracy reading technology for QR codes embedded in 3D printed object using an autoencoder”, 2023 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing, in press.

(開催地：ホノルル／オンライン；開催期間：2023 年 2 月 28 日～3 月 3 日)

M. Suzuki, K. Yanaka, “Effect of illusion figure’s oscillation on Fraser-Wilcox illusion”, International Symposium on Affective Science and Engineering 2023, Session ID: AM-

1B-04, 4p.

(開催地：オンライン；開催期間 2023 年 3 月 8 日)

M. Iwamoto, M. Suzuki, K. Uehira, “Technique to create a printing plate with an FDM 3D printer using PLA resin mixed with xylem and elastomer”, International Symposium on Affective Science and Engineering 2023, Session ID: AM-1A-06, 4p.

(開催地：オンライン；開催期間 2023 年 3 月 8 日)

M. Suzuki, H. Torii, K. Uehira, “GAN technique for reading QR code embedded in 3D printed object”, The 2023 5th International Conference on Image, Video and Signal Processing, in press.

(開催地：シンガポール／オンライン；開催期間 2023 年 3 月 24～26 日)

<テクニカルレポート>

鈴木雅洋, 加倉井優也, 高田英明, 上平員丈, “光学透過型ヘッドマウントディスプレイを用いた奥行き融合における仮想対象の輝度の効果”, 電子情報通信学会技術研究報告, vol. 122, no. 213, pp. 43-46, 2022 年 10 月. (HIP2022-56)

鈴木雅洋, 中枝武弘, 増田修, 内川恵二, “ipRGC 応答はまぶしさ知覚へ寄与するか?”, 映像情報メディア学会技術報告, vol. 46, no. 38, pp. 35-38, 2022 年 11 月. (HI2022-32)

鈴木雅洋, 上平員丈, “階層的奥行き知覚要因提示法の提案とその第 1～2 階層の評価”, 映像情報メディア学会技術報告, vol. 47, no. 12, p. 13-16, 2023 年 3 月. (HI2023-9)

[その他]

<国内学会・研究会>

鈴木雅洋, 中枝武弘, 増田修, 内川恵二, “まぶしさ知覚へ及ぼす要因の解明”, VISION, vol. 34, no. 4, pp. 155. (日本視覚学会 2022 年夏季大会, 石川県金沢市／オンライン, 2022 年 9 月 5～7 日)

鈴木雅洋, Piyarat Silapasuphakornwong, Parinya Punpongsanon, 上平員丈, “熱溶解積層式カラー 3D プリンター造形物の色再現向上技術”, 画像関連学会連合会第 8 回秋季大会予稿集, p.148-149, 2022 年 11 月. (画像関連学会連合会第 8 回秋季大会, 愛知県名古屋市／オンライン, 2022 年 11 月 21～22 日)

高田英明, 鈴木雅洋, 上平員丈, “視覚の相互作用により空間を変調する「変調現実 (Modulated Reality: MoR)」の提案”, 日本バーチャルリアリティ学会 第 77 回サイバースペースと仮想都市研究会, 長崎県長崎市, 2023 年 3 月 16 日.

富川拓 准教授

【論文】

富川拓, 2023, 「家庭科における『新しい家族・ライフスタイル』に関する教育について」『藤女子大学家庭科・家政教育研究会 第 17 号』, pp.3-10.

【学会発表】

山田一隆,大東貢生,富川拓,柴田和子,古川秀夫,「日本におけるサ・ビス・ラーニングの展開(25) ー論文題目の自然言語分析からみたわが国のサービス・ラーニング研究の関心の変遷その2ー」,日本福祉教育・ボランティア学習学会(第28回こうべ大会,神戸大学鶴甲第2キャンパス),ポスター発表,2022年11月27日.

多胡陽介 准教授

- ・学会参加(日本体力医学会、日本体育・スポーツ・健康学会)
- ・論文

Tago Y, Urata T, Kume M, Yoshida T (2022). Relationship between the ground reaction force and lower limb movement during experimental tackle motion in rugby football players of various play levels. *Gazzetta Medica Italiana - Archivio per le Scienze Mediche* 181(4), 250-259.

多胡陽介・浦田達也・芳田哲也(2022)ラグビー競技のタックルを成功させるために何が必要か?ータックラーとボールキャリアーに焦点を当てたゲーム分析とバイオメカニクスの検討ー. *体力科学* 71(4), 305-318.

小澤克彦 講師

- ・学会参加(日本情報科教育学会)

森雄二郎 講師

【論文】

種別：単著

森雄二郎(2022)「欧州諸国の移民教育の動向に関する一考察ー1950年代から2000年代にかけた政策の変遷に着目してー」『聖泉論叢(増刊)』,第1号,pp1-14。

種別：共著

森雄二郎・布井雅人・水野千都(2022)「地域子育て支援センターが果たすべき役割や機能についてー利用者の期待・満足度についての量的調査を通じてー」『聖泉論叢(増刊)』,第1号,pp15-29。

【学会活動】

日本ソーシャル・イノベーション学会 企画委員会

日本ソーシャル・イノベーション学会年次大会 実行委員会

【外部資金による研究活動】

同志社大学人文科学研究所第 20 期部門研究会「ソーシャル・イノベーション学構築に向けた総合的研究」（代表者：今里滋） 研究分担「多文化共生におけるソーシャル・イノベーション研究」

彦根市 委託事業「国際理解教育推進事業」

山越章平 講師

< 著書 >

なし

< 論文 >

なし

< 助成金による研究活動 >

1) 科学研究費（2021 年 4 月～2023 年 3 月まで）

題目：「大学生アスリートにおける反芻・省察が競技パフォーマンスと精神的健康に与える影響」

池田龍也 講師

・ 論文

池田龍也（2022）. 線形回帰分析における誤差項の非正規性および不均一性が分析結果に及ぼす影響 —仮想データによるシミュレーション— 聖泉論叢 増刊号, 30-43.

・ 競争的資金

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「ACE を背景にもつ難治性うつ病の発達経路の検討とその簡易スクリーニング法の現場実装」（研究代表者：田辺 肇，研究分担者：井上 猛，戸田裕之，長峯正典，池田龍也）

・ 学会における活動

日本学校メンタルヘルス学会 選挙管理委員会副委員長

木村大樹 講師

【書籍】

木村大樹（2022）. 自閉スペクトラム症の対人不安——語りから探る「自己意識」. 創元社.

【論文】

多胡陽介・木村大樹・押岡大覚（2023）. 優れた競技レベルのモルック選手における投てき動作の運動学的特徴——矢状面からの事例的検証. 聖泉論叢, 30号, 79-93.

【学会活動】

日本パーソナリティ心理学会 編集委員

山堀貴彦 助教

研究ノート

題目：東京 2020 オリンピックにおけるフィールドホッケーのゲーム分析（その1）—フィールドゴールの状況—

掲載雑誌：聖泉論叢（増刊号）

発行年月日：2022 年 9 月 5 日

山口隆介 講師

（論文）すべて単著

山口隆介（2022）「グルテンフリーのホスチアをどう考えるか—トマス・アキナスの議論に基づいて—」、日本カトリック神学会『日本カトリック神学会誌』32号

山口隆介（2022）「トマス・アキナスにおける7つの「賜物」と「至福」、宗教倫理学会『宗教と倫理』22号、pp.43-55

（研究ノート）すべて単著

山口隆介（2023）「トマス・アキナス『神学大全』における *vulgus* の用例」『聖泉論叢』30号

山口隆介（2023）「現代文化論序説」『聖泉論叢』30号

3. 地域貢献

唐楽寧 教授

彦根市日中友好協会理事・副会長

彦根市企業立地審査会委員（2023年1月1日～2025年12月31日）

彦根市と中国湘潭市との友好都市青少年オンライン交流事業（2022年9月22日開催、事業全体のコーディネーターと通訳）

李艶 教授

○ 地域活動

① 京都市 外国人労働者のメンタルヘルスについての講演（2022年9月）

② 大津市 国際交流フェアラムの提言と実施（2022年4～2023年3）

③ 京都市 越境者の心理的適応について (2022 年 9 月 オンライン)

押岡大覚 教授

【総合的な探究の時間】

- 2022 年 4 月 山形県立山形東高等学校における当該授業の外部識者として、高校 2 年生 2 名に対して継続的に専門的知識の提供を行った【テーマ：高校生の被授業体験における楽しさの構成概念に関する臨床心理学的研究】

【講演会】

- 2022 年 5 月 令和 4 年度滋賀県栄養士会通常総会記念講演「コロナ禍におけるこころの健康ー「共感」の発生とその起源ー」講師 主催：滋賀県栄養士会（於：オンライン）
- 2022 年 6 月 令和 4 年度西日本ブロック夏季研修会「学習教室運営上配慮すべき児童の心理」講師 主催：(株) ガウディア（於：オンライン）

多胡陽介 准教授

委員等

- ① 滋賀県彦根市 湖東定住自立圏共生ビジョン KPI 外部評価 委員
- ② 滋賀県彦根市 運動推進委員会 委員

講師等

- ① 2022 年 5 月 稲枝地区公民館 講師「フレイル予防といずみ体操」
- ② 2022 年 10 月 彦根市健康推進委員協議会 講師「楽しく動いて健康づくり大会」
- ③ 2022 年 10~11 月 愛荘町 健康推進委員養成講座 講師「運動の効果とその実践方法」

(高校への出前授業)

2022.11.16 大津青陵高校番場分校 「あなたはどんな未来を描く？」

小澤克彦 講師

生活困窮家庭を対象とした学習支援活動を行った。

毎週月曜日、19 時～21 時、彦根市中地区公民館

森雄二郎 講師

【委員会活動】

彦根市 多文化共生推進委員会 委員長

彦根市教育委員会 点検評価委員会 委員長

彦根市 放課後児童クラブ委託事業者選定に係る公募型プロポーザル審査会 委員長

滋賀県 多文化共生推進プラン中間評価に係る懇話会 委員

【研修講師・出前授業等】

(研修講師)

2022.8.10 国際教育教材体験フェア in 滋賀 2022

「ワークショップ&ファシリテーション入門ー学び合いの場をデザインするための技法」

2022.10.1 びわ湖東北部地域連携協議会 市民教養講座「異文化コミュニケーション入門」

2022.10.7 彦根市教育委員会「外国人児童生徒をめぐる状況について」

2022.11.13 令和4年度彦根市多文化共生サポーター研修会

「言葉が通じない体験から考えるー1人ひとりができる支援のカタチ」

2022.11.28 社会福祉法人びわこ学園

「誰もがモチベーションをもってリーダーシップを発揮できる職場へ」

(高校の出前授業)

2022.7.7 近江兄弟社高等学校 「私たちのココロと社会とのつながり」

2022.7.15 河瀬高等学校 「多文化共生とは何か」

2023.2.1 彦根工業高等学校 「多文化共生を考える」

池田龍也 講師

聖泉大学カウンセリングセンターにて相談員として心理臨床面接を実施している

2022年7月12日 滋賀県立愛知高等学校の生徒を対象とした進路教育にて講師を務めた。

演題は『心理職の仕事』であった（G-NETしが男女共同参画センターにて開催）

2022年7月29日 高校生を対象とした滋賀県教育委員会高大連続講座にて講師を務めた。

演題は『呪術と心理師』であった（聖泉大学にて開催）

2022年8月26日 滋賀県内の医療従事者を対象とした講習会の講師を務めた。演題は『医療従事者のためのEZR講習会』であった（聖泉大学にて開催）

2022年9月28日 滋賀県立米原高等学校の生徒を対象とした進路学習の講師を務めた。

演題は『心理職の仕事』であった（滋賀県立米原高等学校にて開催）

2023年3月10日 びわ湖東北部地域連携協議会の主催するびわ湖東北部地域連携協議会共同SD研修会の講師を務めた。演題は『心理学で作る“円満な人間関係”～あなたのメガネは何色？～』であった（聖泉大学およびリモートで開催）

以上のほか、他大学・大学院生への研究支援を無償で実施した。

木村大樹 講師

聖泉大学カウンセリングセンターにて相談員として心理臨床面接を実施している

2022 年 6 月 21 日 滋賀県立八幡高等学校の教職員を対象にした研修会を実施した。演題は『不登校の心理と支援』であった（八幡高校にて開催）。

2022 年 6 月 9 日 彦根総合高等学校の生徒を対象とした進路学習の講師を務めた。演題は『心理職の仕事』であった（滋賀県立米原高等学校にて開催）

山堀貴彦 助教

① しがスポーツ大使

② BlueSticks SHIGA 監督

- ・ 日本リーグ H2 4 位（年間 120 日活動）

- ・ ホッケー教室や子供たちの大会運営、地域のイベント参加（年間 10 日活動）

委員会活動
(2021 年 4 月～2022 年 3 月)

2－1 教務委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：富川拓
- 2) 委員：押岡大覚、鈴木雅洋、森雄二郎、山越章平、山口隆介、北川慎吾

2. 所掌事項

- 1) 教育事務に関わる業務
 - ・カリキュラムに関わる業務
 - ・時間割作成・授業担当者決定に関わる業務
 - ・履修登録に関わる業務
 - ・授業に関わる業務
 - ・試験に関わる業務
 - ・成績評価・単位認定に関わる業務
 - ・進級に関わる業務
 - ・卒業研究に関わる業務
 - ・卒業判定に関わる業務
- 2) 学籍に関わる業務
- 3) 学年暦に関わる業務
- 4) 科目等履修生・聴講生・研究生に関わる業務

3. 委員会活動

4 月	前期受講状況調査 第 1 回 期間：4 月授業開始時～5 月上旬 第 1 回委員会（4/12） 審議：学籍異動、長期履修 協議：不開講科目の再開講 報告：なし
5 月	前期受講状況調査 第 2 回 期間：5 月上旬～6 月上旬 第 2 回委員会（5/17） 審議：2+2 留学生用カリキュラム、長期履修 協議：仮進級クラスのあり方 報告：新型コロナウイルス対応フローチャート
6 月	前期受講調査 第 3 回 期間：6 月上旬から 7 月上旬 第 3 回委員会（6/21） 審議：2+2 留学生用カリキュラム、2+2 留学生既修得単位認定

	報告：教員相互の授業参観を後期より実施
7 月	通常業務
8 月	第 4 回委員会（8/23） 審議：学籍異動、2+2 カリキュラム 協議：令和 5 年カリキュラム 報告：追試対象者の延べ人数
9 月	第 5 回教務委員会（9/6） 審議：学籍異動、公欠願 報告：単位取得状況、再試験実施状況
10 月	後期受講状況調査 第 1 回 期間：10 月上旬～11 月上旬 第 6 回委員会（10/4） 審議：学籍異動 協議：令和 5 年度カリキュラム 報告：履修登録状況
11 月	第 7 回委員会（11/8） 審議：試験日程 協議：令和 5 年度カリキュラム
12 月	第 8 回委員会（12/6） 審議：2022 年度秋入学生(2+2)既修得単位認定 協議：プロジェクト演習旅費支給申請 報告：科目担当者、シラバス
1 月	第 9 回委員会（1/10） 審議：長期履修 協議：カリキュラム 報告：合理的配慮が必要な学生について
2 月	第 10 回（2/7） 審議：「臨床・発達領域カリキュラムを成立させるための教員募集に関する学長、理事長への申し入れ」 協議：履修要項 報告：予測される学籍異動 第 11 回委員会（2/28） 審議：卒業判定、不正行為対応、非常勤公募 協議：聖泉大学学則及び聖泉大学授業料等未納者に係る除籍の取扱いに関する規程の一部改正について 報告：GPA の非卒業要件化

3 月	第 12 回委員会（3/8） 審議：学籍異動、総括、GPA の非卒業要件化 協議：導入教育に関する事項 報告：ゼミ選択にかかる希望調査
-----	--

4. 総括

【最終総括】委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-2 学生委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：森雄二郎
- 2) 委員：小澤克彦、池田龍也、木村大樹

2. 所掌事項

- 1) 学生生活に関わる業務
 - ・学生の自主活動(課外活動・ボランティア等)に関わる業務
 - ・学生の自治に関わる業務
 - ・学生の団体(クラブ・同好会等)に関わる業務
 - ・学生の健康に関わる業務
 - ・学生の安全にかかわる業務
- 2) 奨学金（外部）にかかわる業務
- 3) 学長表彰・学長奨励表彰にかかわる業務

3. 委員会活動

4 月	第 1 回委員会（4/26） 審議：学生表彰 協議：業務分担、奨学生
5 月	第 2 回委員会（5/24） 協議：要配慮学生支援
6 月	
7 月	第 3 回委員会（7/21） 協議：クラブ活動、学園祭
8 月	
9 月	第 4 回委員会（9/6） 協議：学園祭
10 月	第 5 回委員会（10/25） 協議：学園祭、立ち番指導
11 月	
12 月	第 6 回委員会（12/13） 協議：卒業パーティ
1 月	
2 月	第 7 回委員会（2/20） 協議：学生表彰、総括

3 月	
-----	--

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-3 進路支援委員会

1. 構成メンバー

委員長：炭谷将史、委員：多胡陽介、木村大樹、川並真由美

2. 所掌事項

学生の進路支援に関わる業務、資格取得・検定試験合格等の支援に係る業務

3. 委員会活動

4月	第1回委員会（4/26） 議事：委員会の役割分担について、ジョブメソッドの予定案
5月	第2回委員会（5/24） 議事：シガジョブパークによる支援について、ジョブメソッドの進捗状況
6月	第3回委員会（6/21） 議事：ジョブメソッド企業講演会依頼先、5月末現在の進路状況
7月	第4回（7/19） 議事：進路関係授業のあり方、6月末現在の進路状況について
10月	第5回（10/25） 議事：業界セミナー及び合同企業説明会、秘書検定の担当、9月末現在の進路状況について
11月	第6回（11/22） 議事：入学前課題、進路登録カード、10月末現在の進路状況について
12月	第7回（12/20） 議事：資格助成、11月末現在の進路状況について
1月	第8回委員会（1/17） 議事：資格取得に係る図書の選定、秘書検定の実施、12月末現在の進路状況について

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上

2-4 FD 委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：李艶
- 2) 委員：森雄二郎

2. 所掌事項

ファカルティ・ディヴェロップメント(教育機能の向上)に関わる業務

- ・研修会に関わる業務
- ・授業アンケートに関わる業務
- ・教育力を高めるための共通意識形成に関わる業務

3. 委員会活動

FD 委員会主導の下で、学生の学修状況を踏まえた教授法の工夫・開発に取り組んだ。特にポートフォリオの作成に関して、人間学部では、8 月 2 日に事前課題に取り組む機会を作りました。8 月 9 日全学 FD・SD 研修会に 12 名の教員は参加した。学部内と全学の研修会を踏まえて、各自の教育理念、教育方法、教育成果を振り返るとともに他の教員の手法を学び、教育活動に対する今後の短期・長期の目標を設定した。

学部 FD 活動の一環として、自らの授業改善の参考にするとともに、意見交換を通じてお互いの教育手法や学生とのかかわりなどをみなすため、教員相互に授業参観することを実施した。授業参観を実施する前に公開授業希望調査を行った。取り組みは授業参観を終えた後、参観した教員は特に参考にしたいと思ったこと、参観しての感想や意見、質問などを【サンクスシート】記入して、授業担当者および FD 委員に提出した。教員間の授業に関する交流ができた。

後期授業アンケートの実施を行った。例年の回答率が低いことを改善するため、アンケートの呼びかけの結果、回答率が上がった。教員間では、学生からのアンケート結果を踏まえて、今後の授業改善につながると認識している。全国の FD 研修を積極的に参加した。学部の教員は第 28 回 FD フォーラム シンポジウム「これからの大学でどのように学ぶのか～主体性を生み出す学びの多様性～」に参加し、他大学の FD の取り組みについて勉強した。

4. 総括

【最終総括】委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上

2-5 広報委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：多胡陽介
- 2) 委員：唐楽寧、炭谷将史、池田龍也、吉田猛、今宿團、宮川華

2. 所掌事項

- 1) 大学広報に関わる業務
 - ・学部の活動に関わる広報
 - ・教員の活動に関わる広報
 - ・学生募集に関わる広報
- 2) オープンキャンパスに関わる業務

3. 委員会活動

4 月	第 1 回委員会 (4/7) 議事：今年度広報戦略、役割分担
5 月	第 2 回委員会 (5/11) 議事：今年度広報戦略、オープンキャンパス
6 月	第 3 回委員会 (6/8) 議事：オープンキャンパス、通信制高校への高校訪問、OC 勧誘動画
7 月	第 4 回委員会 (7/6) 議事：オープンキャンパス DX
8 月	第 5 回委員会 (8/9) 議事：令和 6 年度学生募集停止に伴う今年度学生募集と広報活動の方針
9 月	第 6 回委員会 (9/13) 議事：彦根総合高校の大学見学会、オープンキャンパス

4. 総括

【最終総括】委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上

2－6 入試委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：機密性が高いので秘匿。
- 2) 委員：機密性が高いので秘匿。

2. 所掌事項

入試に係る業務

3. 委員会活動

定例委員会を行った。機密性が高いのでスケジュール等詳細は秘匿。

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上

2-7 紀要委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：山口隆介
- 2) 委員：山越章平

2. 所掌事項

『聖泉論叢』に関わる業務

- ・『聖泉論叢』発行に関わる業務
- ・『聖泉論叢』頒布に関わる業務

3. 委員会活動

4月	第1回委員会（4/12）本年度スケジュールと役割分担を審議、確定。 4/26 紀要投稿希望者調査開始
5月	5月6日 『聖泉論叢』増刊1号 原稿回収完了 第2回委員会（5/10） 業務状況確認。
6月	第3回委員会（6/14）業務状況確認。
7月	第4回委員会（7/12）業務状況確認 7/29 紀要投稿希望者調査終了
8月	第5回委員会（8/10）投稿希望調査結果報告。投稿希望者全員に執筆依頼。
9月	9月5日 『聖泉論叢』増刊1号 本学機関リポジトリにて公開 第6回委員会（9/14）印刷業者選定
10月	第7回委員会（10/11）印刷業者選定
11月	11/4『聖泉論叢』原稿回収。 第8回委員会（11/9）進行状況確認。印刷業者選定。
12月	聖泉論叢発行に向けての作業 第9回委員会（12/13）進行状況確認。
1月	聖泉論叢発行に向けての作業 第10回委員会（1/10）進行状況確認。
2月	聖泉論叢発行に向けての作業 第11回委員会（2/14）進行状況確認。紀要の増刊について協議
3月	聖泉論叢発行に向けての作業 第12回委員会（3/14）進行状況確認。紀要の増刊について協議 3/27 『聖泉論叢』30号納品。学内頒布および学外頒布完了。

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上

2-8 スポーツ・身体運動支援センター

1. 構成メンバー

- 1) センター長：炭谷教授、
- 2) メンバー：多胡准教授、山越講師、山堀助教、後藤助手

2. 所掌事項

- (1) 学生の課外のスポーツ活動を支援するための事業
- (2) 地域スポーツ活動の振興に寄与するための事業
- (3) スポーツ振興のための研究・調査に関する事業
- (4) その他、センターの目的達成のために必要な事業

3. センター活動

4 月	第 1 回定例会 (4/19) 議事：センター事業と役割分担について、特別クラブの活動状況
5 月	第 2 回定例会 (5/31) 議事：マネジメント系学生の活動・募集について、特別クラブ学生の活動状況
6 月	第 3 回定例会 (6/29) 議事：学生スポーツ・マネジメント委員の募集、各部の試合結果、学生募集について、要支援学生の現状
7 月	第 4 回定例会 (7/27) 議事：各部の試合結果、学生スポーツ・マネジメント委員、学生募集について、要支援学生の現状
9 月	第 4 回定例会 (9/20) 議事：各部の試合結果、学生募集について、要支援学生の現状
10 月	第 6 回定例会 (10/11) 議事：活動量計の購入、要支援学生の現状
11 月	第 7 回定例会 (11/15) 議事：2022 年度特別クラブ スポーツ特待生、要支援学生の現状
12 月	第 8 回定例会 (12/13) 議事：予算案、要支援学生の現状
1 月	第 9 回定例会 (1/17) 議事：女子サッカー部の説明会、納会、要支援学生の現状
2 月	第 10 回定例会 (2/21) 議事：女子サッカー部の学生募集、スポーツ特待生のチェック機能 (今後の運営方針)、要支援学生の現状

4. 総括

センター活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上

2-9 公認心理師委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：押岡大覚
- 2) 委 員：富川 拓 池田龍也 木村大樹

2. 所掌事項

聖泉大学人間学部における公認心理師養成に係る業務

3. 委員会活動

- 心理実習施設について
- 心理実習に係る学生保険の検討を行った。
- 心理実習に係る公欠手続きについて検討を行った。
- 心理実習事前・事後学習のスケジュールと内容について検討を行った。
- 心理実習要項について検討を行った。
- 心理実習マニュアルの改訂を適時行った。
- 院試対策マニュアルの改訂を適時行った。
- 心理実習記録簿の改訂を適時行った。
- 「心理実習」の教員評価シートおよび自己評価シートについて検討を行った。
- 令和4年度の総括（事務局・実習担当・院試担当それぞれ）と課題の洗い出しを行った。

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上